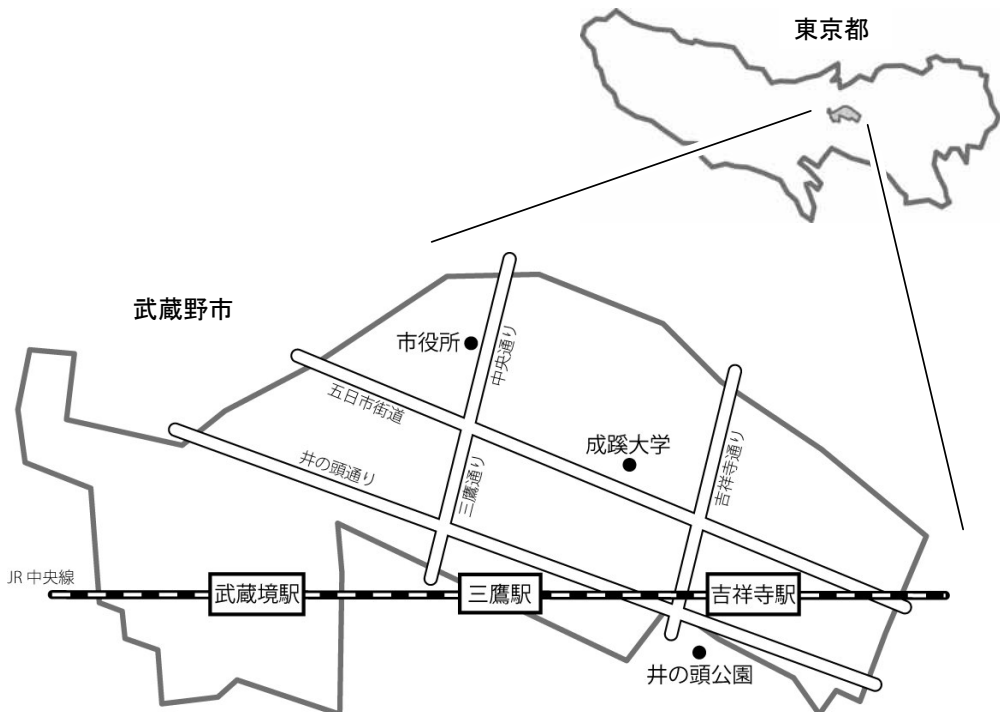


成蹊大学社会調査実習 2007 年度報告書

—第2回 地域と生活についての武蔵野市民調査—

成蹊大学社会調査士課程 監修

小林盾, 武藤正義 編集



はじめに

本書は、「第2回地域と生活についての武蔵野市民調査」の報告書です。成蹊大学文学部現代社会学科の「社会調査実習」という授業の一環として、2007年7～8月に東京都武蔵野市で調査を実施しました。2006年度にはじまり、今回が2回目となります。

調査では、人びとが生活や地域についてどのように考えているのかを、明らかにすることを目的としました。現代社会では、グローバリゼーションが進んで地球規模で一体化しつつあるため、ともすれば人びとが地域社会との関わりを失っているかもしれないからです。

そこで、成蹊大学のある武蔵野市で、22～69歳の市民400人を住民基本台帳から無作為に選んで対象として、郵送調査を行いました。発送した400票のうち、266票が有効票として返送されましたので、回収率は66.5%となります。

授業は、教員2名（小林盾・武藤正義）と学生65名で進めました（32名と33名の2クラス）。社会調査士課程の実習科目でもあり、全員が課程履修者でした。学生は関心のあるテーマごとに14の班に分かれて、調査票作成からデータ分析まで行います。毎週宿題が出るため、授業時間外での活動のほうの方が長かったようです。

以下は、「この調査について」「調査結果」「資料」という3つの部で構成されています。調査結果では、武蔵野市の人びとの姿を、さまざまな角度から浮かびあがらせることを目指しました。今回武蔵野市を事例として得られた知見は、地域活性化への課題など、他の地域でも当てはまることがあるかもしれません。今後も成蹊大学社会調査士課程では、同様の調査を続けていき、成果を地域社会に積極的に還元していきたいと考えています。

この調査を実施し、報告書を作成するにあたって、多くの方々からご協力いただきました。はじめに、回答してくださった方々に深く感謝いたします。おかげで、地域と生活についての貴重なデータを集めることができました。住民基本台帳の閲覧では、武蔵野市役所環境生活部戸籍住民課の方々にお世話になりました。

成蹊大学文学部の先生方（とりわけ現代社会学科の先生方）、渡辺舞子氏、長澤理子氏はじめ成蹊大学学務部履修課の方々には、社会調査士課程の運営環境を整えていただきました。教職課程室の方々からは、要所要所でサポートしていただきました。成蹊学園総務部広報課の方々から、写真を提供していただきました。報告書の作成には、日野原志帆さん、宇賀神早苗さんに手伝ってもらいました。記して感謝いたします。

2009年2月 成蹊大学社会調査士課程

成蹊大学文学部現代社会学科 専任講師 小林盾

成蹊大学文学部現代社会学科 非常勤助手 武藤正義

成蹊大学社会調査実習 2007 年度報告書
—第2回 地域と生活についての武蔵野市民調査—

成蹊大学社会調査士課程 監修
小林盾, 武藤正義 編集

目 次

第 I 部 この調査について

A 調査の概要	小林盾, 武藤正義	1
B 統計用語	小林盾	9
C 履修者一覧		11

第 II 部 調査結果

武蔵野市について

第1章 吉祥寺のイメージ	塩島郁恵, 秋田紀子, 飯島樹里, 大橋亜紀江, 三浦綾佳	13
第2章 イベント参加	門田あずさ, 栗原真理恵, 塩田恵美, 中村敦美, 永井規予	17
第3章 グループ活動	亀田梨央, 八田真悠子, 森田一樹, 渡邊めぐみ	21
第4章 ネットワーク	荒さおり, 小倉香織, 佐藤由奈, 鈴木麻依子, 日向美樹	25
第5章 武蔵野市との関わり	塚本由樹, 秋山ゆうき, 神山美紗子, 下杉恵美, 吉賀達裕	29
第6章 武蔵野市への愛着	大竹志世理, 菊池絢子, 菊地千由希, 酒井英典	33
第7章 武蔵野市への期待	田中英恵, 後宮裕子, 小川美和子, 関根亜実	37

生活について

第8章 ライフスタイル	小倉由衣, 木内彩十子, 滝口美穂, 本間英由子, 渡辺悠介	41
第9章 レジャー	土居絵里子, 古賀仁美, 前島なつき, 水落麻美, 森田恵未	45
第10章 運動	長内はる香, 秋山一樹, 小澤亜衣子, 宮川奈美子, 渡辺敦美	49
第11章 ストレス	本多遊馬, 榎並麻子, 小櫃さおり, 増田彩子, 三ツ木由香	53
第12章 メディアとの関わり	黒田絵理佳, 内山彩野, 北村達行, 渡辺ともみ	57
第13章 家族	浅野慶太, 苜敬子, 高坂しのぶ, 塚原絵里子	61
第14章 格差問題	和久井瞳, 佐久間恵梨, 田中千尋, 甘楽由紀, 武藤優佳	65

第 III 部 資料

A 基礎集計表		69
B 自由回答		94
C 調査票と督促状		99

第 I 部 この調査について

A 調査の概要

B 統計用語

C 履修者一覧

A 調査の概要

小林盾, 武藤正義

第1節 調査の概要

(1) 調査名

第2回 地域と生活についての武蔵野市民調査.

(2) 調査実施者, 調査実施責任者

実施者: 成蹊大学社会調査士課程.

実施責任者: 小林盾 (成蹊大学文学部現代社会学科 専任講師), 武藤正義 (成蹊大学文学部現代社会学科 非常勤助手).

(3) 調査期間

2007年8月1日 (調査票を発送) ~ 9月10日 (最後の調査票が返送).

(4) 調査方法 (詳細は第4節参照)

郵送調査.

(5) 母集団

2007年7月31日時点で満22~69歳の武蔵野市民男女 (1937年8月1日~1985年7月31日生まれ).

(6) 計画標本

400人.

(7) 抽出方法 (詳細は第3節参照)

二段無作為抽出法. 地点として8つの丁を, 人口規模を考慮しないで系統抽出した. 各地点から50人を, 住民基本台帳から系統抽出した.

(8) 有効回収数, 回収率 (詳細は第5節参照)

266人, 66.5%.

(9) 謝礼

500円の図書カード. 調査票に同封して先渡しとした.

第2節 調査の目的

この調査の目的は、人びとが地域の中でどのように生活しており、地域についてどのように考えているのかを明らかにすることにある。現代社会では、地球規模での一体化（グローバルゼーション）が進む中で、ややもすれば地域社会との人びとの関わりが少なくなってきたかもしれないからである。

そのために、成蹊大学のある東京都武蔵野市を、事例として取りあげた。武蔵野市は、東京都心部の近郊住宅地でありながら、吉祥寺という商業地域もある。この点で、首都圏地域の縮図ともいえるかもしれない。

なお、この調査は成蹊大学社会調査士課程における教育の一環であり、社会調査実習という授業の中で実施された。2006年度に開始され、今回は2回目となる。本年度は2クラス合同で行い、授業は通年で毎週木曜2限（10：40～12：10）と3限（1：10～2：40）に社会調査士課程室で行われた。

第3節 標本の抽出方法

(1) 地点の抽出

丁を単位とした。武蔵野市の全51丁から、第1回調査（2006年度）の8調査地点を除いて、丁を単位として43丁から8丁を系統抽出した（人口規模は考慮していない）。その結果、下記の8丁が選ばれた。

	抽出された地点	抽出方法
第1回調査 (2006年度)	吉祥寺南町2丁目、吉祥寺北町5丁目、中町1丁目、西久保1丁目、緑町2丁目、境1丁目、境南町5丁目、桜堤2丁目	丁を単位としてランダムサンプリング（人口規模を考慮しない）
第2回調査 (2007年度)	吉祥寺東町2丁目、吉祥寺南町4丁目、吉祥寺本町3丁目、吉祥寺北町4丁目、八幡町1丁目、関前2丁目、境3丁目、境南町4丁目	丁を単位として系統抽出（人口規模を考慮しない）

(2) 個人の抽出

武蔵野市役所にて住民基本台帳を閲覧して、合計410人を系統抽出した（各地点から50人ずつ、ただし境南町4丁目のみ60人）。400人を計画標本、10人を予備標本とした。

地点ごとの人口は、1000人から4500人の範囲であった。そこで、抽出間隔は「30人」で固定した（八幡1丁目のみ人口がほぼ1000人だったので20人）。スタート番号は、あらかじめ各地点ごとに、ランダムに準備した。

サンプリング作業は、2007年7月18日午前9時から午後3時に、教員2人（小林盾、武藤正義）と学生4人で行った。住民基本台帳を閲覧する際、「閲覧申請書」「誓約書」「文学部長による調査実施証明書」「調査票」「教職員証と学生証の写し」を事前に提出した。

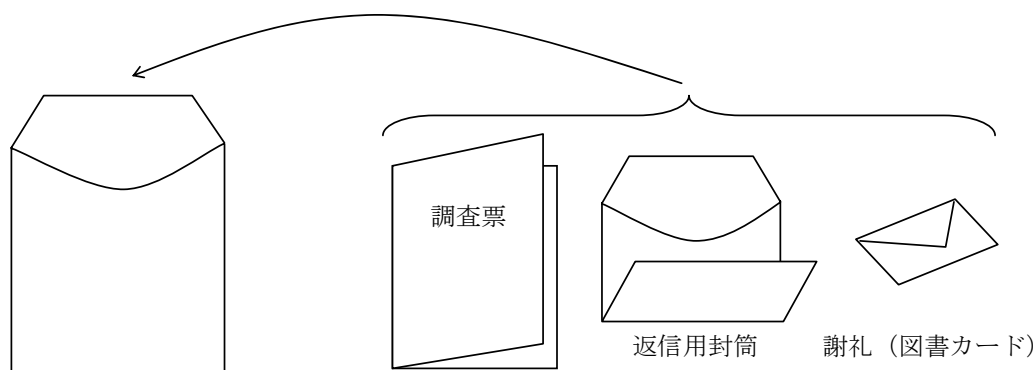
第4節 調査の実施方法

(1) 郵送調査

調査票，返信用封筒（切手貼付済み），謝礼を封入して，封筒にて送信した．回収は匿名で行った．また，督促状を葉書で全員に2回送付した．

(2) 仕様と作業内容

	仕様	作業内容
調査票	A3 用紙 2 枚に両面印刷（業者依頼）．厚口，さくら色の冊子．	表紙にスタンプで「図書カードが同封されています」．
送付封筒	「社会調査士課程室」名入り角 2 号封筒．	表にスタンプで「調査依頼在中」．宛て先シールと 140 円切手を貼付．
返信封筒	「社会調査士課程室」名入り角 2 号封筒．	宛て先を「社会調査士課程室」と印刷済み．表にスタンプで「返送期日～月～日」と押印してから，期日の 8/13 を記入．140 円切手と両面テープを貼付．2 つ折り．
督促状葉書	官製葉書．	文面をリソグラフで印刷．宛て先シールを貼付．期限を蛍光黄色ペンで強調．
謝礼	500 円の図書カード．紙ケース入り．	
留守番電話	8/2～ 30 に設置．	「こちらは成蹊大学社会調査士課程室です．開室時間は，月曜日と木曜日の，午前 10 時から午後 5 時です．ご用件があるかたは，ピーという発信音のあとに残してください」と録音．
大学ホームページ	8/2～ 30 にアナウンス．	「新着情報・お知らせ」欄に「社会調査士課程室で社会調査実習のアンケートを実施」として調査票第 1 ページ（PDF ファイル）へとリンク．



(3) 予備標本の使用

400 票を発送したうち、3 票が宛て先不明で返送された。そこで、予備標本から 3 人に発送した。

(4) 無効票

1 票あった。対象者が 0 歳児だったため（サンプリング時の間違い）、すべての質問に無回答だった。

(5) 問い合わせ

電話で 2 件あった。1 つは対象者の家族からで、「知的障害者なので回答できない」とのことであった。もう 1 つは、第 2 回督促状について「すでに回答したのに、なぜ督促状がくるのか」との質問だった。また、第 2 回督促状の「受け取り拒否」が 1 件あった。

(6) データ入力後のデータクリーニング

無回答には「999」を割りふった。○が指定より多い場合は、サイコロを使用して選んだ（以上エディティング）。その後、アフターコーディングとロジカルチェックを行った。

第 4 節 日程

授業は週 1 回 90 分であり、1 年間つづいた。日程は、以下のとおりである。

	授業	授業外の作業
2007 年 4/12	前期授業開始（7/19 まで）	
4/26~ 5/10	テーマを決める	
5/17	仮説を立てる	
5/24~ 6/21	質問を作る	
6/28~ 7/12	調査票を作成する	
7/18		武蔵野市役所にてサンプリング
7/19~ 31	発送準備	発送準備
8/1		調査票発送
8/9		第 1 回督促状を送付
8/9~ 9/24		データ入力
8/13		返送期日
8/20		第 2 回督促状を送付
9/10		最後の調査票が届く
9/24~ 10/1		データクリーニング
9/27	後期授業開始（1/10 まで）	
10/4~ 11/1	記述統計をもとめる（分布、平均）	

11/8~ 22	分析する（相関係数）	
11/29~ 12/20	報告書を執筆	
2008年 1/10	報告書原稿の提出，授業終了	

第5節 回収状況

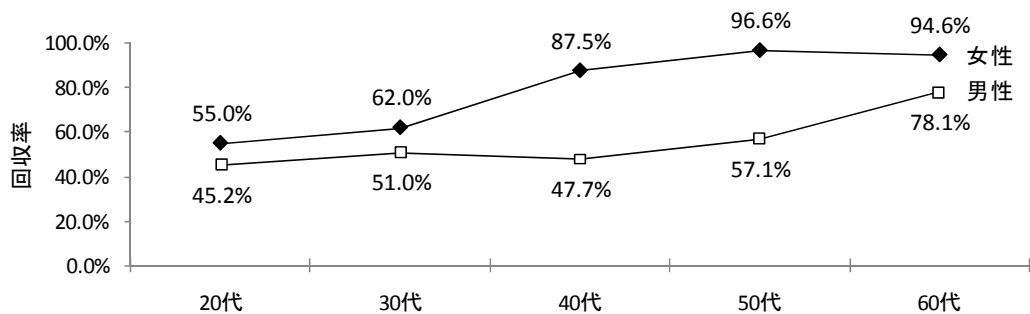
(1) 回収率

66.5%であった（400人に発送して有効回答が266人）。2006年度の調査では、206人から回答があり、51.5%であった。

(2) 性別，年齢別の回収率

以下のとおりとなった。ただし、回答者266人のうち4人で、性別と年齢が不明だった（そのため合計での回収率が65.5%となっている）。

すべての年齢で、女性のほうが回収率が高かった。とくに、40代と50代で差が大きかった。



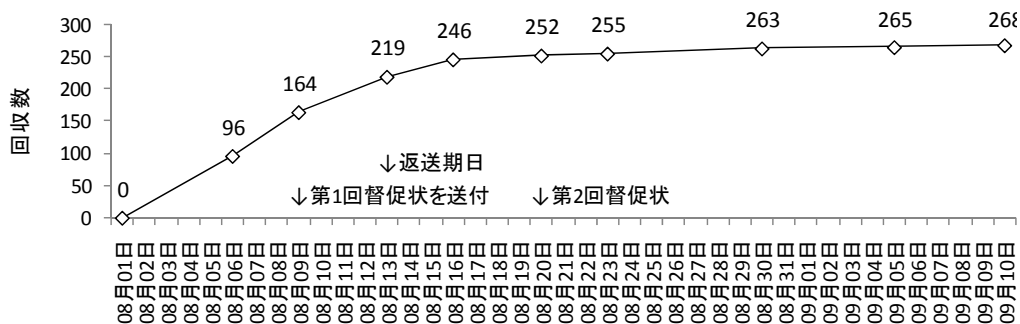
性別，年齢別の回収率

性別，年齢別の有効回収数，回収率

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
女性	22人 (55.0%)	31人 (62.0%)	35人 (87.5%)	28人 (96.6%)	35人 (94.6%)	151人 (77.0%)
男性	19人 (45.2%)	26人 (51.0%)	21人 (47.7%)	20人 (57.1%)	25人 (78.1%)	111人 (54.4%)
合計	41人 (50.0%)	57人 (56.4%)	56人 (66.7%)	48人 (75.0%)	60人 (87.0%)	262人 (65.5%)

(3) 時系列での回収数

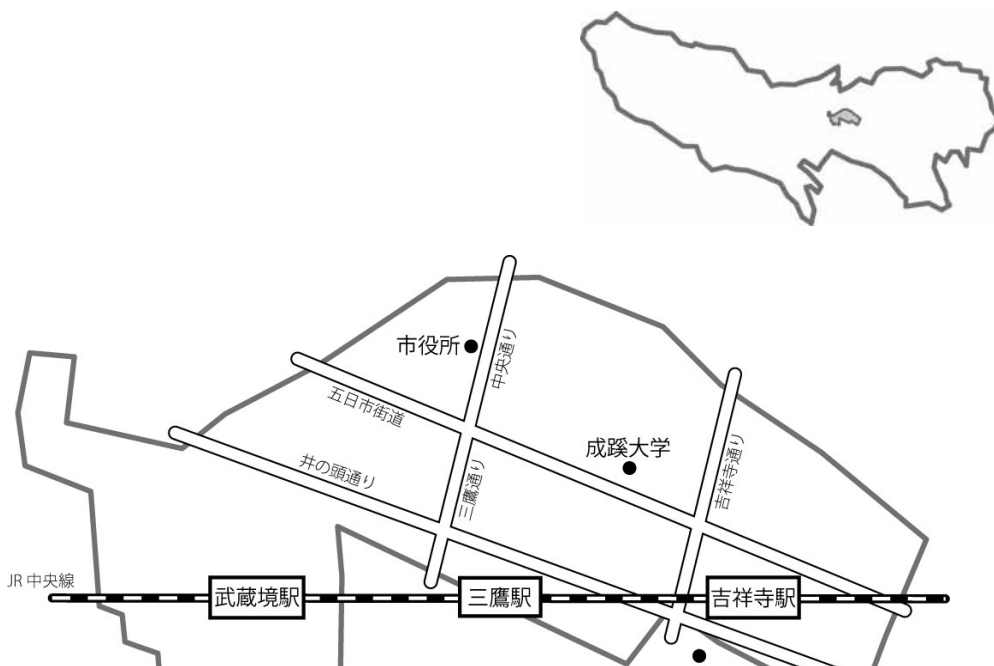
以下のとおりとなった。督促状を2回送付し、それぞれ効果はあったようである。



時系列での回収数

第6節 東京都武蔵野市について

東京都武蔵野市は東京23区の西側にあり、都庁所在地の新宿から約12kmの西方に位置する。東西に長い形をしている。東に杉並区、西に小金井市、南に三鷹市、北に西東京市が隣接している。住宅地が多いが、各駅周辺には商業施設、市北部には市役所を中心に野外スポーツ施設や公園、南部には井の頭（いのがしら）公園がある。



武蔵野市の市勢

地理	東西 6.4 キロ，南北 3.1 キロ，面積 10.7 平方キロ，標高 50~ 65 メートル
人口	134,253 人，男性 64,887 人，女性 69,366 人，69,821 世帯（2008 年 1 月 1 日現在），人口密度 12,512 人／平方キロ
歴史	1889 年 神奈川県北多摩郡武蔵野村が誕生 1893 年 東京府に編入 1928 年 町制施行（東京府北多摩郡武蔵野町） 1947 年 市政施行（東京都武蔵野市）

武蔵野市には、JR 中央線の駅が西から順に、武蔵境、三鷹、吉祥寺の 3 つある。吉祥寺駅から新宿駅へは JR 中央線で約 15 分であり、渋谷駅へは京王井の頭線で約 16 分である。武蔵境駅は西武多摩川線の終点でもあり、府中市や多摩川方向へとつながっている。

武蔵野市には自治会や町内会がないが、かわりに市民が企画運営する「コミュニティ・センター」がある。コミュニティバス「ムーバス」は、通常のバスが通っていない地域をカバーしており、同種のサービスの先駆けとなった。

市の人口は 13 万 4528 人、世帯数は 6 万 9947 世帯となっている（2007 年 8 月 1 日現在）。1970 年頃から、ほぼ横ばいで推移している。14 歳以下は 1 万 4312 人、65 歳以上は 2 万 5536 人いた。

人口密度は約 12,000 人（平方キロメートルあたり）であり、これは市町村別で全国 3 位である（1 位は埼玉県蕨市，2 位は東京都 23 区）。産業別では、第 1 次産業従事者が 1%以下、第 2 次産業従事者が 1 割くらい、第 3 次産業従事者は 8 割以上と多い。

なお、武蔵野市や吉祥寺に関する書籍は、数多く出版されている。武蔵野市発行のものである、『統計でみる武蔵野市』が毎年発行されており、人口など基礎的な情報が掲載されている。『2007 武蔵野市市勢要覧』は、市制施行 60 周年を記念して発行され、これまでの市の歴史や現在の姿が掲載されている。

他に武蔵野市については、たとえば『公助・共助・自助のちから：武蔵野市からの発信』（成蹊大学文学部学会，2006 年，風間書房）や『ムーバスの思想 武蔵野市の実践』（土屋正忠，2004 年，東洋経済新報社）がある。吉祥寺については、『吉祥寺スタイル：楽しい街の 50 の秘密』（三浦展，2007 年，文芸春秋）や『きちぼん』（きちぼん出版プロジェクト，2006 年，ラトルズ）がある。

B 統計用語

小林盾

本文では、いくつか統計用語が使用されている。以下で、主なものを説明する。

1 母集団と標本

調査で知りたい人の全体を、「母集団」とよぶ。予算、時間、人員などに制限があるときは、母集団の一部を「標本」として調査する。この調査では、母集団である 22~ 69 歳の武蔵野市民は約 9 万人おり、標本である調査対象者は 400 人であった。

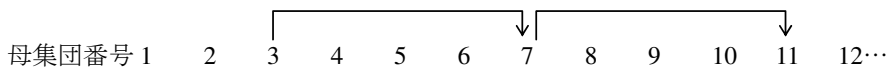
2 無作為抽出（ランダムサンプリング）と有意抽出

標本の各個人を同じ確率で選ぶことを、無作為抽出する（ランダムサンプリングする）という。標本が無作為抽出されたなら、調査対象者（標本）は、たとえ人数が少なくても、全体（母集団）の偏らない縮図とみなすことができる。無作為抽出されていないとき、「有意抽出された」という。

この調査は、標本を無作為抽出している。

3 系統抽出法

無作為抽出をするための簡便な方法に、系統抽出法がある。これは、母集団から標本を等間隔に選んでいく方法である（ただし完全な無作為抽出法にはならない）。まず、1 人 1 人に母集団番号を振ってから、スタート番号を無作為に決めて、最初の標本とする。そのあとで、スタート番号から等間隔に、残りの標本を選ぶ。たとえば、スタート番号が 3 で、間隔が 4 であれば、つぎのように母集団番号 3, 7, 11, …が標本として選ばれる。



この調査では、住民基本台帳から調査対象者を選ぶときに、系統抽出法を用いた。地点ごとに、スタート番号を 24、間隔を 30 などとした。

4 平均

「平均」は、ある質問（変数という）を 1 つの数字で代表させて、いわば重心を表す。つぎの式で計算される。値が 1 と 0 なら、平均は割合（または比率）とよばれ、% で表せる。

$$\text{平均} = \frac{\text{個人1の値} + \text{個人2の値} + \dots}{\text{合計人数}}$$

5 標準偏差

「標準偏差」は、ある変数の「散らばり」の度合いを1つの数字で表す。つぎの式で計算されて、0以上の値になる。

$$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{(\text{個人1の値} - \text{平均})^2 + (\text{個人2の値} - \text{平均})^2 + \dots}{\text{合計人数} - 1}}$$

6 相関係数

「相関係数」とは、年齢と家族人数など、2つの質問がどれくらい関連しているのかを、1つの数字で表す。つぎの式で計算されて、-1から1の間となる。

$$\text{相関係数} = \frac{(\text{個人1の変数1の値} - \text{変数1の平均}) \times (\text{個人1の変数2の値} - \text{変数2の平均}) + \dots}{\text{変数1の標準偏差} \times \text{変数2の標準偏差} \times (\text{合計人数} - 1)}$$

もし相関係数が-0.4などマイナスであれば、片方が増えると他方は減ることになる（たとえば年をとるほど家族が減る）。もし相関係数が0.4などプラスであれば、片方が増えると他方も増える（年をとるほど家族が増える）。

本文では、相関係数がつぎのような表で表現されている（対角線はつねに1であり、右上半分は左下半分と同じとなるので省略してある）。ここでたとえば、図書館利用と市への愛着の相関係数が、0.10となっている。したがって、図書館をよく利用する人ほど、武蔵野市に愛着をもっていることが分かる。

相関係数 (*は有意確率5%未満, **は1%未満)

	図書館利用	市への愛着	市への満足
図書館利用			
市への愛着	0.10		
市への満足	0.04	0.45*	

7 有意確率

「有意確率」は、3%や1%など小さいほど、関連や差が大きいことを表す。統計学では一般に、有意確率が5%未満のときに、関連や差が十分に大きくて、母集団でも関連や差があると見なされる。

たとえば、上の表で市への愛着と市への満足の関連は、相関係数0.45で、有意確率5%未満であった。したがって、市に愛着がある人ほど市に満足しているし、この関連は十分に強いことが分かる。そのような場合、「有意に関連している」などと表現される。

C 履修者一覧

文学部現代社会学科 3~ 4 年生, 65 名

2 限クラス (32 名)

秋山 ゆうき	鈴木 麻依子
浅野 慶太	関根 亜実
筋 敬子	田中 千尋
荒 さおり	田中 英恵
後宮 裕子	塚原 絵里子
内山 彩野	塚本 由樹
榎並 麻子	廿樂 由紀
小倉 香織	日向 美樹
神山 美紗子	本多 遊馬
北村 達行	増田 彩子
黒田 絵理佳	三ツ木 由香
高坂 しのぶ	武藤 優佳
小櫃 さおり	和久井 瞳
佐久間 恵梨	渡邊 ともみ
佐藤 由奈	小川 美和子
下杉 恵美	吉賀 達裕

3 限クラス (33 名)

秋田 紀子	滝口 美穂
秋山 一樹	土居 絵里子
飯島 樹里	中村 敦美
大竹 志世理	永井 規子
大橋 亜紀江	八田 真悠子
小倉 由衣	本間 芙由子
長内 はる香	前島 なつき
小澤 亜衣子	三浦 綾佳
亀田 梨央	水落 麻美
木内 彩十子	宮川 奈美子
菊池 絢子	森田 一樹
菊地 千由希	森田 恵未
栗原 真理恵	門田 あずさ
古賀 仁美	渡辺 敦美
酒井 英典	渡邊 めぐみ
塩島 郁恵	渡辺 悠介
塩田 恵美	

第Ⅱ部 調査結果

武蔵野市について

生活について



第1章 吉祥寺のイメージ

—ハモニカ横丁に着目して—

塩島郁恵（班長），秋田紀子，飯島樹里，大橋亜紀江，三浦綾佳

主な集計結果

- ・吉祥寺の街ときいて，9割の人が井の頭公園をイメージしていた．つづいて，6割の人がサンロードとハモニカ横丁を挙げた．
- ・吉祥寺の街について，店の多様さ，交通の便のよさ，活気を挙げる人がそれぞれ5割以上いた．

第1節 問題関心

この章では，人びとが吉祥寺に対してどのようなイメージをもっているのかを，とくにハモニカ横丁に着目して調べる．吉祥寺は街全体に活気があり（三浦展『吉祥寺スタイル：楽しい街の50の秘密』2007年，文藝春秋），その結果多様なイメージを人びとが抱いていると予想できるからである．

吉祥寺の街は，しばしば都内の住みたい街ランキングでトップとなっている（マクロミル「東京・街のイメージ調査」2006年）．吉祥寺駅北側にはハモニカ横丁が広がる．東西60メートル，南北40メートルくらいの空間に100店舗ほどが，5本の路地の左右に連なっている．ハモニカ横丁はもともと，戦後の闇市にはじまり，食品マーケットとして発展した．しかしその後，吉祥寺にデパートなどの大型商業施設が増えたため，ハモニカ横丁ではいくつかの店が閉店していった．ところが現在では，店も増えて，そのレトロな雰囲気から，幅広い層に親しまれている．そこで，以下の仮説を立てた．

仮説1 井の頭公園やハモニカ横丁など吉祥寺に独自のものほど，多くの人が吉祥寺ときいてイメージするだろう．

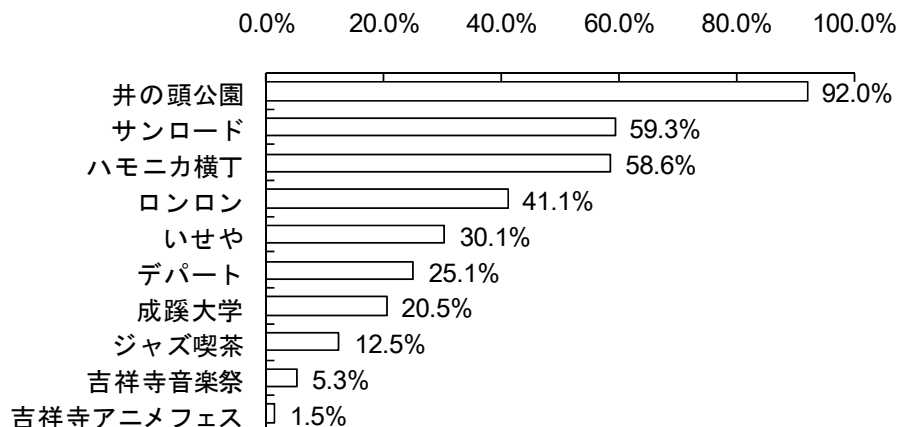
仮説2 年配の人ほど，また市内に長く住んでいる人ほど，ハモニカ横丁に親しんでいるので，吉祥寺ときいてハモニカ横丁をイメージするだろう．

仮説3 ハモニカ横丁をイメージする人ほど，吉祥寺に活気を感じているだろう．

第2節 集計結果

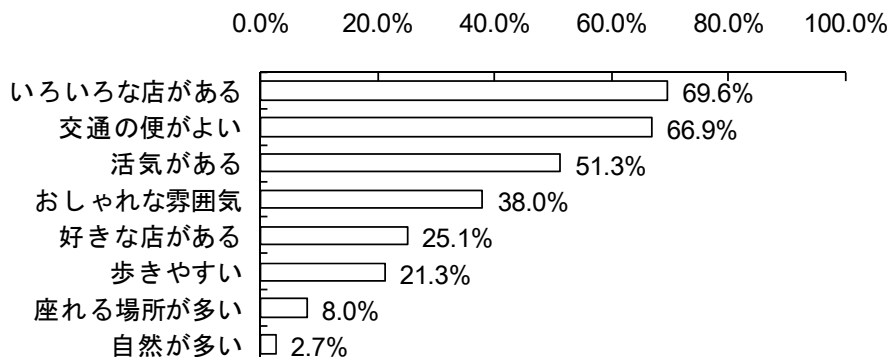
(1) 吉祥寺のイメージ（問1）

問1 あなたにとって、吉祥寺の街らしいと思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)



吉祥寺のイメージ

問2 あなたにとって、吉祥寺の街に当てはまると思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)



吉祥寺に当てはまるもの

吉祥寺の街らしいと思うものについて問1で、「あなたにとって吉祥寺の街らしいと思うものに○をつけてください(○はいくつでも)」と質問した。選択肢は「ジャズ喫茶」「吉祥寺アニメフェス」「吉祥寺音楽祭」「デパート」「サンロード」「ロンロン(駅ビル)」「ハモニカ横丁」「いせや(焼き鳥屋)」「井の頭公園」「成蹊大学」「その他(具体的に)」「とくにない」の12個であった。

全体では、井の頭公園と答えた人が圧倒的に多く、92.0%いた。ハモニカ横丁は58.6%の人が挙げた。一方、吉祥寺音楽祭や、吉祥寺アニメフェスといったイベントは、一時的なものであるためか、回答数が少なかった。

男女別では、ロンロンやデパートといった買い物をする場所については女性が多く、ジャ

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	井の頭公園	サンロード	ハモニカ横丁	ロンロン	いせや	成蹊大学
井の頭公園						
サンロード	- 0.04					
ハモニカ横丁	0.01	0.07				
ロンロン	0.02	0.36**	- 0.02			
いせや	0.04	0.04	0.12	0.02		
成蹊大学	0.12	- 0.02	0.05	0.17**	0.03	

ズ喫茶は男性が多かった。いせやは女性が男性を上回った。年齢では、大きな違いがなかった。とくに井の頭公園、サンロード、ハモニカ横丁はどの年代においても上位 3 つ以内に挙げられた。ジャズ喫茶を挙げるのは、40 代が一番多かった。

その他の自由回答には、「動物園」「玉川上水」「井の頭線」「ムーバス」「文化会館」「新しい場所、旧い所が共存しているのがいい」「路上ライブ」「小さいお店」「飲食店が豊富」「ビルが低くて空がみえる」「東急裏」「大正通り・中道通り」といった意見があった。

(2) 吉祥寺に当てはまるもの (問 2)

吉祥寺の街に当てはまると思うものについては問 2 で、「あなたにとって、吉祥寺の街に当てはまると思うものに○をつけてください (○はいくつでも)」と質問した。選択肢は「交通の便がよい」「好きな店がある」「いろいろな店がある」「おしゃれな雰囲気」「活気がある」「歩きやすい」「座れる場所が多い」「その他 (具体的に)」「とくにない」の 9 つであった。

全体では、いろいろな店があると答えた人が最も多かった。次に交通の便がよいと活気があるが多かった。4 番目のおしゃれな雰囲気から半数ほどとなり、好きな店がある、歩きやすいと続き、座れる場所が多いがつづく。その他の自由回答には、自然が多いという意見が多かった。

男女別では、好きな店があると答えたのは女性のほうが男性の倍近くいた。どの年代でも、いろいろな店がある、交通の便がよい、活気があるは上位 3 つ以内に挙げられた。交通の便がよいは、40 代以上で多かった。

その他の自由回答では、「治安が良い、安全」「明るくてのんびりしている」「小さな区域に店が集中しているのでショッピングしやすい」「ランチする店が多い」「街が大きい」「繁華な割に住宅地があり、生活感がある」「老若男女問わず楽しめる」「若者のまち」「子供 (幼児) を連れて行きやすい」「自然と街がうまく共存している」といった、肯定的な声が多かった。

第 3 節 関連

吉祥寺のイメージについての関連をまとめると、表となった (吉祥寺のイメージで上位 5 つと成蹊大学について)。これらから、仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (井の頭公園やハモニカ横丁など吉祥寺に独自のものほど、多くの人が吉祥寺ときいてイメージするだろう) おおむね肯定された。井の頭公園が 1 位、ハモニカ横丁が 3 位だった。

仮説 2 (年配の人ほど、また市内に長く住んでいる人ほど、ハモニカ横丁に親しんでいるので、吉祥寺ときいてハモニカ横丁をイメージするだろう) 部分的に肯定された。年齢が上がるほど、有意にハモニカ横丁を思い浮かべる人が増えた。ただし、市内在住年数や性別とは、関連がなかった。

仮説 3 (ハモニカ横丁をイメージする人ほど、吉祥寺に活気を感じているだろう) 肯定された。有意な正の関連があった。

第 4 節 まとめ

この章では、武蔵野市に住む人びとが吉祥寺という街に対してどのようなイメージをもっているのかを検討した。考察の結果、井の頭公園やハモニカ横丁など吉祥寺に独自のものが、イメージとして定着していることがわかった。また、ハモニカ横丁は、年配の人を中心にして、性別や年齢を問わずに支持されていることも明らかになった。

地方では近年、商店街の衰退が進んで、シャッター商店街と呼ばれるようになっている。1995 年には、全国の商店街の空き店舗率は 6.9%であったが、2006 年には 9.0%となり、平均 5.3 店が空き店舗になった。

ハモニカ横丁も、一度は時代の流れから取り残されたこともあった。一度シャッター通りになってしまうと、人通りが減少して、治安が悪化することもある。

そこで、ハモニカ横丁の居酒屋店主にインタビューを実施した。現在の様なハモニカ横丁へと変わっていったのは 7、8 年前だそう。ビデオ機材販売店が飲食店をオープンさせてから、その後飲食店へと変わる店が増えた。また、昼と夜では違うお店になったり、曜日によって店主が変わるなど、斬新な経営形態をとる店舗が増えて、ハモニカ横丁の自由な雰囲気を作り出した。また、世代交代もあった。外部の人に土地を貸した店舗も多い。そうして、闇市であったころの雰囲気を残したまま、新しい風が吹き込まれて、現在の形となったようだ。

このように、ハモニカ横丁では古くから親しまれているイメージを残しつつも、新しい一面を盛り込むことに成功した。その結果、幅広い層の人の関心を惹くことができたのだろう。



第2章 イベント参加

—参加者からみる現代社会—

門田あずさ（班長），栗原真理恵，塩田恵美，中村敦美，永井規予

主な集計結果

- ・この1年間で2割の人が武蔵野桜まつりに参加して，市内イベントのなかでもっとも多かった。
- ・他には，むさしの青空市に8.0%，市民文化祭に7.3%の人が参加していた。

第1節 問題関心

この章では，どのような人が市内のイベントに参加するのかを調べる．これを調べることで，住民のコミュニティ参加を活性化させるための糸口を，明らかにすることができるかもしれない。

そこでまず，市環境生活部生活経済課商工係の齋藤尚志係長に，インタビューを行った．2007年度桜まつりには約3万6千人が参加し，むさしの青空市には約1万人が参加したという．武蔵野市の人口が約13万人であることから，市民の参加率が高いことがわかる．どのイベントも，基本的には子どもをターゲットとしており，親である主婦層を呼ぶことにより集客しているとのことであった．ここから，以下の仮説を立てた。

仮説1 市内に長く住んでいる人ほど，また年配の人ほど，市内のイベントによく参加するだろう。

仮説2 1つのイベントに参加する人は，他のイベントにも参加するだろう。

仮説3 市内のイベントによく参加する人ほど，武蔵野市が好きだろう。

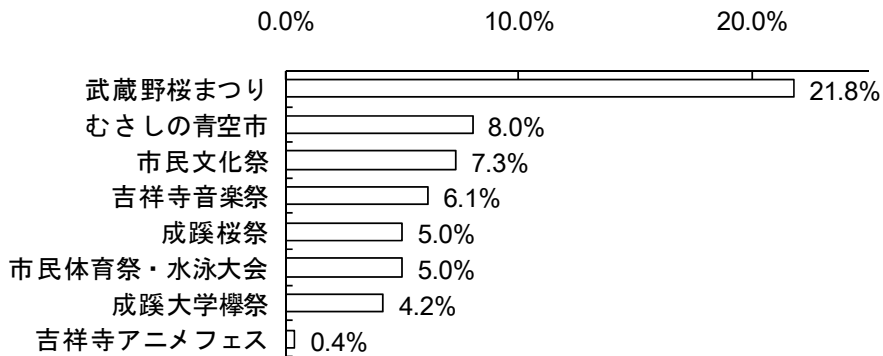
第2節 集計結果

(1) 武蔵野市のイベントへの参加（問3）

武蔵野市のイベントについて問3で，「あなたはこの1年間に，市内のイベントに行きましたか」と質問した．選択肢は「吉祥寺アニメフェスティバル」「武蔵野桜まつり」「成蹊桜祭」「吉祥寺音楽祭」「市民体育祭・水泳大会」「むさしの青空市」「成蹊大学櫻祭」「市民文化祭」「その他」「どこにも行っていない」の10個であった。

「吉祥寺アニメフェスティバル」は，東京国際アニメフェアの関連企画であり，優秀アニメ

問3 あなたはこの1年間に、市内のイベントに行きましたか。(〇はいくつでも)



武蔵野市のイベント参加

メ作品の上映や、ガンダムプラモデル教室が開かれる。「武蔵野桜まつり」は、市民公園で行われる市内で最も大きいイベントで、出店やステージ、子ども広場などでにぎわう。

「成蹊桜祭」は、卒業生団体である成蹊会が主催して、成蹊学園で行われる。「吉祥寺音楽祭」は、ジャズやフォークのコンサートが行われたり、バンドのコンテストが行われる。「市民体育祭・水泳大会」は、数か月にわたり、様々なスポーツの試合をする。「むさしの青空市」は、賢い消費者になるために開かれる催し物で、商店街の店が出店する。「成蹊大学櫺祭」は、成蹊大学で秋に行われる学園祭で、学生が部活やサークル単位で模擬店を出店したり、キャンパス内でライブを行う。「市民文化祭」は、市民団体が参加し、舞台や展示を行う催し物であり、趣味を発表する場となっている。

全体では、武蔵野桜まつりに行くと答えた人が 21.8%でもっとも多かった。市内イベントの中でも最も大きいイベントであるため、比較的行くと答えた人が多いのだろう。つづいて、むさしの青空市 8.0%、市民文化祭 7.3%、吉祥寺音楽祭 6.1%となっている。成蹊大学関連だと、成蹊桜祭にきた人が 5.0%、成蹊大学櫺祭が 4.2%いた。市民体育祭・水泳大会 5.0%、吉祥寺アニメフェスティバル 0.4%、その他と答えた人が 3.1%いた。ただし、どれにも行っていない人が 61.8%いた。

その他の自由回答には、「市民大運動会 (10月)・南町カーニバル (7月)」「ロンロンコンサート (子供の日)」「吉祥寺南町祭り」「三鷹の阿波踊り」「境まつり」「かっぱの家 (保育所) バザー」「市内小中学生の展覧会」などが挙がっていた。

男女でく比べると、むさしの青空市と市民文化祭は女性の参加者が多かった。これらは、主婦の参加者が多いためだろう。年齢別でく比べると、市民文化祭は 40代の参加者が多いが、全体的には年齢を重ねるごとに参加が増える傾向がある。高齢者の方が自由な時間があるためかもしれない。結婚している人は、結婚していない人にくらべてイベント参加率が高い。子供を連れて行くなど、親子での参加が増えるためだろう。市内在住年数をく比べると、長い人ほどイベントに参加する人が多いようである。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	桜まつり	青空市	文化祭	音楽祭	成蹊桜祭	櫛祭
武蔵野桜まつり						
むさしの青空市	0.32**					
市民文化祭	0.21**	0.24**				
吉祥寺音楽祭	0.02	0.10	0.11			
成蹊桜祭	0.18**	0.06	- 0.06	0.16**		
成蹊大学櫛祭	0.07	0.15*	0.01	0.11	0.30**	

第3節 関連

武蔵野市のイベント参加についての関連をまとめると、表となった（上位5つと成蹊大学櫛祭について）。ここから、仮説は以下のように検証された。

仮説1（市内に長く住んでいる人ほど、また年配の人ほど、市内のイベントによく参加するだろう） おおむね肯定された。このことは、武蔵野桜まつりや成蹊桜祭で顕著だった。ただし、このパターンが当てはまらないイベントもあった。

仮説2（1つのイベントに参加する人は、他のイベントにも参加するだろう） おおむね肯定された。とくに、武蔵野桜まつりに参加した人は、有意に成蹊桜祭に参加していた。成蹊桜祭に参加した人は、有意に成蹊大学の櫛祭にきていた。

仮説3（市内のイベントによく参加する人ほど、武蔵野市が好きだろう） 部分的に肯定された。武蔵野桜まつりと吉祥寺音楽祭については、参加した人ほど有意に武蔵野市を好きだった。しかし、それ以外のイベントでは、そういうことはなかった。

第4節 まとめ

この章では、どういう人が市内イベントに参加するのかを検討した。考察の結果、イベントに参加しているのは、市内に長く住んでいたたり、複数のイベントに参加するなど、なにかしら地域にネットワークをもっている住民らしいことがわかった。

生活経済課商工係長へのインタビューから、「イベントはやることに意義がある」と聞いた。もちろん、参加者同士でネットワークが築かれることも大切だろう。とはいえ、全ての世代の参加を目指すことは難しい。そこで、イベントをやることで「自分の住んでいるところが活発に活動している」という意識を住民がもつことも、イベントをやる上での大切な目的であるようだ。

地域ネットワークを再構築していくときに、このように地域の人たちと一緒にイベントに参加することが、役立つかもしれない。共通の体験をすることで、地域の改善に向けて一歩を踏み出すことができるだろう。



第3章 グループ活動

—コミュニティセンターに着目して—

亀田梨央（班長），八田真悠子，森田一樹，渡邊めぐみ

主な集計結果

- ・2割弱の人が，スポーツや生協でグループ活動をしていた。
- ・コミュニティセンターには，1割の人が参加していた。

第1節 問題関心

この章では，人びとが地域でどのようなグループ活動をしているのかを，とくにコミュニティセンターに注目して調べる。コミュニティセンターは，武蔵野市に特有の制度である。市内に20あり，人びとのグループ活動を行う場となっている。

現代の日本社会では，友人との会食や集まりが，年配者ほど少なくなる。20代では，男女とも約45%が，週に1回以上会食の機会をもっている。30代以上になるとこの比率は急激に減少し，男性で23%，女性で16%になる。（岩井紀子・佐藤博樹編『日本人の姿』2002年，有斐閣選書）。そこで，以下の仮説を立てた。

仮説1 女性ほど，多くのグループに入っているだろう。

仮説2 市内に長く住んでいる人ほど，また年齢が高い人ほど，コミュニティセンターをよく利用するだろう。

仮説3 コミュニティセンターを利用する人ほど，市内に悩みを相談できる友人がいるだろう。

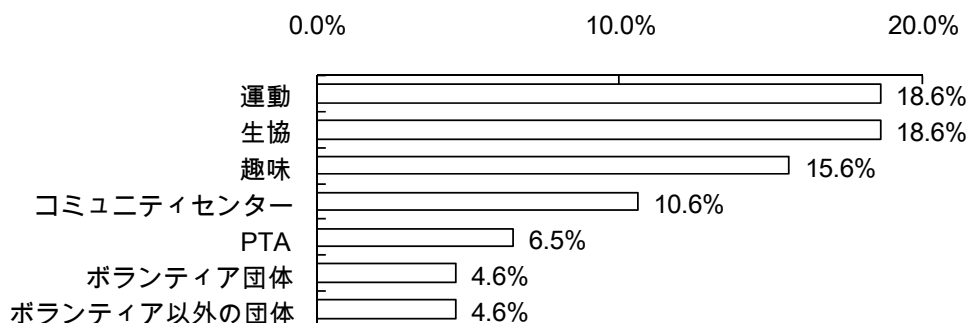
第2節 集計結果

(1) グループ活動（問6）

地域でのグループ活動について問6で，「あなたは現在，（市内外で）何かの会や組織に入っていますか（〇はいくつでも）」と質問した。選択肢は「趣味（コーラス，写真など）」「運動（クラブやジムなど）」「PTA」「生協」「コミュニティセンター利用」「ボランティア団体」「ボランティア団体以外の市民団体・NPO」「その他」「入っていない」の9つだった。

どのグループにも入っていない人が，ちょうど半数いた。入っている人のうち，もっとも多かったのが，運動と生協で18.6%だった。

問6 あなたは現在、(市内外で)何かの会や組織に入っていますか。(〇はいくつでも)



グループ活動

コミュニティセンターは、全体だと 10.6%が利用している。男女で比べると、女性 14.0%で男性 6.4%よりかなり多かった。結婚していない人よりも結婚している人のほうが利用していた。年齢別だと、60代が 25.4%と一番多く、次いで 40代の 12.5%であった。市内在住年数を比べると、9年以下の人が 8.5%であったのに対し、10年以上在住の人が 12.0%とやや多かった。

その他の自由回答には、「子供会」「子供達を守る見守隊」「子供を守る家、SOS110 番のシールを門に貼って協力」「自然・育児・友の会」「植物の研究団体」「芸文協」「アルテの会」「教会 (キリスト教)」などがあつた。

第3節 関連

グループ活動についての関連をまとめると、表となった(上位6つについて)。したがって、仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (女性ほど、多くのグループに入っているだろう) おおむね肯定された。女性ほど、コミュニティセンター、趣味、PTA、生協で有意にグループ活動をしていた。ただし、それ以外のグループ活動では、男女で差がなかった。

仮説 2 (市内に長く住んでいる人ほど、また年齢が高い人ほど、コミュニティセンターをよく利用するだろう) 部分的に肯定された。年配者ほど、有意にコミュニティセンターを利用していた。しかし、市内在住年数が長くても短くても、同じように利用していた。

仮説 3 (コミュニティセンターを利用する人ほど、市内に悩みを相談できる友人がいるだろう) 肯定された。コミュニティセンターでのイベントなどをとおして、気のあう友人が増えるためだろう。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	運動	生協	趣味	コミセン	PTA	ボランティア
運動						
生協	0.05					
趣味	0.14*	0.01				
コミュニティセンター	0.18**	0.28**	0.33**			
PTA	0.11	0.23**	0.01	0.06		
ボランティア団体	- 0.01	0.08	0.16*	0.22**	0.02	

第4節 まとめ

この章では、地域のさまざまな会や組織で、人びとがどのように活動しているのかを検討した。分析の結果、女性や年配者ほど、グループ活動に積極的であることがわかった。とくに、コミュニティセンターを利用するのは年配の人が多かった。

「けやきコミュニティセンター」でインタビューを実施した。他のコミュニティセンターではコミュニティセンター主催の会や組織や催しがあるのだが、そうしたものは無いという。その代わりに、市民が自発的に趣味の会などを開き、コミュニティセンターを交流の場として活用していた。

利用者は、調査結果のとおり年配の方が多くようだ。つづいて子をもつ母親世代が多く、中高生や子どもも、学校帰りに勉強をしに来たり遊びに来たりしているという。ただ、若者が集まっている様子はなく、話も聞けなかった。

なお、会の参加者どうしで、悩みを相談するわけでは必ずしも無いようだ。あくまで趣味を目的に集まる、という人が多いようである。

武蔵野市でも、若者や独身者は、地域での交流が少ないだろう。もしそうした人たちが、積極的にコミュニティセンターを利用するようになれば、コミュニティセンターを舞台にさまざまな世代の人たちで交流できるかもしれない。



第4章 ネットワーク

—相談相手，お中元，お歳暮—

荒さおり（班長），小倉香織，佐藤由奈，鈴木麻依子，日向美樹

主な集計結果

- ・悩みを相談しなう相手が，市内には平均して2.8人，市外に6.9人いた。
- ・6割以上の人が，お中元やお歳暮を贈ったり，もらっていた。

第1節 問題関心

この章では，人びとが地域でどのようなネットワークをもっているかを，相談相手やお中元に着目して調べる。現代社会では人間関係が希薄化しているとも指摘されているからである。

NHK 放送文化研究所の調査によれば，「なにかにつけ相談したり助け合える」といった全般的付き合いが良いと考える人は20%で，「会ったときに挨拶する程度」の形式的な付き合いを望む人よりも少なかった（NHK 放送文化研究所『現代日本人の意識構造』2004年）。そこで，以下の仮説を立てた。

仮説1 市内に長く住んでいる人ほど，市内に悩み相談相手が多いだろう。

仮説2 市内に相談相手がいる人ほど，市外にも多いだろう。

仮説3 相談相手が多い人ほど，お中元やお歳暮を贈っているだろう。

第2節 集計結果

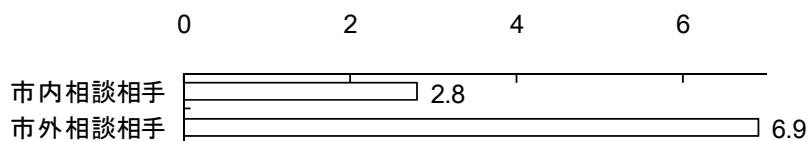
(1) 相談相手（問8）

ネットワークについて問8で，「あなたには，悩みを相談しあう方が，市内と市外に何人くらいいますか（家族を除く）」と質問して，だいたい～人くらいと答えてもらった。

全体では市内相談相手が平均2.8人，市外相談相手が平均6.9人で約3倍多かった。市内だと範囲が狭く，相手が限定されてしまうからだろう。男女でくらべると，市内は男性平均2.7人，女性平均2.9人で女性のほうがやや多かった。市外は男性平均9.3人，女性平均5.1人で男性のほうが多かった。

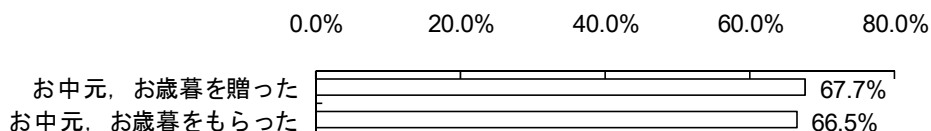
年齢別でくらべると，最も多かったのが，市内は60代で4.4人，市外は30代で12.3人だった。結婚している人は，市内は平均3.0人，市外は平均7.5人で，結婚していない人にくら

問8 あなたには、悩みを相談しあう方が、市内と市外に何人くらいいますか（家族を除く）。



相談相手（～人）

問9 あなたにはこの1年間に、以下のことがありましたか。（○はそれぞれ1つ）



お中元, お歳暮

べて両方とも多かった。市内在住年数をくらべると、市内は10年以上の人が平均3.7人で9年以下の人より多く、市外は9年以下の人が平均8.8人で10年以上の人より多かった。

(2) お中元, お歳暮（問9）

次に問9で、「あなたにはこの1年間に、以下のことがありましたか。」として、お中元・お歳暮を贈った（家族の方も含めて）かと、お中元・お歳暮をもらった（家族の方も含めて）かを質問した。選択肢は「ある」「ない」の2つであった。

お中元・お歳暮を贈ったのは、全体で67.7%だった。男女でくらべると、男性は68.5%で、女性は67.8%でほとんど差がなかった。年齢別でくらべると、60代93.1%に対して、20代35.0%と大きな差があった。結婚している人は、80.6%が贈ったが、結婚していない人は43.7%だった。市内在住年数をくらべると、10年以上75.6%、9年以下54.8%となった。

お中元・お歳暮をもらった人は、全体で66.5%だった。男女でくらべると、男性69.4%で、女性65.1%とほとんど差がなかった。年齢別でくらべると、60代91.4%に対して、20代37.5%と差があった。結婚している人74.1%にたいして、結婚していない人は52.9%だった。市内在住年数をくらべると、10年以上の人75.8%、9年以下51.1%があると答えた。

第3節 関連

ネットワークについての関連をまとめると、表となった。したがって、仮説は以下のよう
に検証された。

仮説1（市内に長く住んでいる人ほど、市内に悩み相談相手が多いだろう） おおむね肯定された（有意ではないが傾向があった）。子供をとおした役員会や地域の集会などで、ネッ

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	市内相談相手	市外相談相手	贈った	もらった
市内相談相手				
市外相談相手	0.26**			
お中元・お歳暮を贈った	0.12	0.07		
お中元・お歳暮をもらった	0.02	0.06	0.69**	

トワークが深まっていくためだろう。

仮説 2 (市内に相談相手がいる人ほど、市外にも多いだろう) 肯定された。

仮説 3 (相談相手が多い人ほど、お中元やお歳暮を贈っているだろう) 肯定された。悩みを相談することで、今後も付き合いを続けていきたいという思いも込めて、お中元・お歳暮を贈るのだろう。

第 4 節 まとめ

この章では、人びとがどれくらい他人と交流をもっているかを、悩み相談とお中元・お歳暮に着目して検討した。考察の結果、市内在住が長い人ほど相談相手が市内に多く、そうした人は市外にも相談できる人が多いことがわかった。また、そうした人はお中元・お歳暮をよく贈っていた。

人びとのネットワークが多様化している中で、自分にあったつながり方をどうやって選択していけばよいのだろうか。お中元・お歳暮のようなやり取りもあれば、直接会って話をすることもできる。コンピューターや電話をとおしてコミュニケーションをとることもできる。

たしかに、直接会って話すことは面倒くさいだろう。しかし、地域というきっかけがあれば、意外と簡単かもしれない。こうした形で地域のネットワークを広げていくことも、今後は必要だろうし、武蔵野市であれば可能かもしれない。



第5章 武蔵野市との関わり

—出身地，学校，仕事，家族—

塚本由樹（班長），秋山ゆうき，神山美紗子，下杉恵美，吉賀達裕

主な集計結果

- ・ 15.6%の人が市内で生まれた。市内の小学校には 20.6%，中学校には 17.9%，高校と大学には 2.3%の人が通った。
- ・ 現在，17.9%が市内に勤めている。

第1節 問題関心

この章では，武蔵野市民がこれまで武蔵野市とどのように関わってきたのかを調べる。とくに，どれくらいの人が市内で生まれ育ち，市内で仕事をしているのかを調べる。

厚生労働省「国民生活基礎調査」（2005年）によれば，日本人の家族形態は，「夫婦と未婚の子のみの世帯」の核家族が最も多く 31.1%である。次いで「単独世帯」が 24.6%，「夫婦のみの世帯」が 21.9%となっている。「三世代世帯」は 9.7%と少ない。この章では，三世代世帯に着目していく。そこで，以下の仮説を立てた。

- 仮説 1** 市内に長く住んでいる人ほど，市内で生まれ育っただろう。
- 仮説 2** 市内で生まれ育った人ほど，市内に職場があるだろう。
- 仮説 3** 市内で生まれ育った人ほど，三世代世帯になっているだろう。

第2節 集計結果

(1) 市内在住年数（問 23）

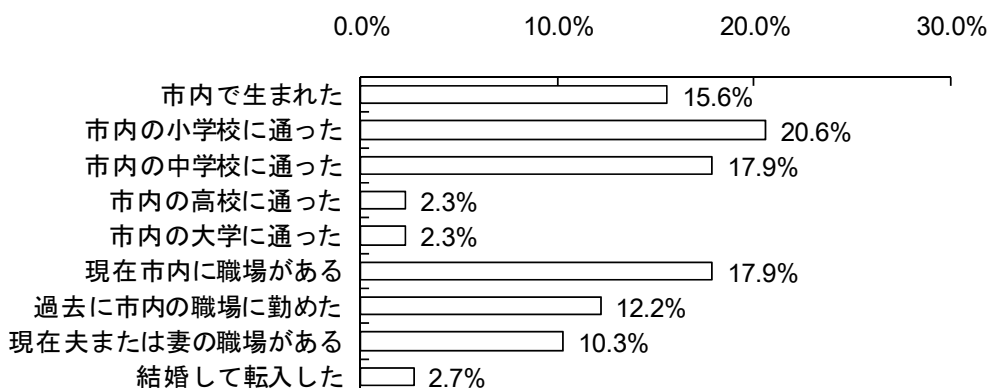
問 23 で，「あなたは，武蔵野市に通算してどれくらい住んでいますか」と質問した。年数を記入してもらった。

全体では，平均 20.1 年であった。年齢別では 20 代が最も短く 10.3 年で，30 代 12.3 年，40 代 16.3 年，50 代 26.7 年のように年代が上がるにつれて長くなり，60 代で 32.3 年になる。

(2) 武蔵野市との関わり（問 24）

武蔵野市との関わりについて問 24 で，「あなたは，これまで武蔵野市とどのように関わってきましたか（○はいくつでも）」と質問した。選択肢は「市内で生まれた」「市内の小学校

問 24 あなたは、これまで武蔵野市とどのように関わってきましたか。(〇はいくつでも)



武蔵野市との関わり

に通った」「市内の中学校に通った」「市内の高校に通った」「市内の大学に通った」「現在、市内に職場がある」「過去に、市内の職場に勤めたことがある」「現在、市内に夫または妻の職場がある」「その他」「どれも当てはまらない」の10個であった。

全体では、市内で生まれた人は15.6%いた。市内小学校に通った人が20.6%、中学校に通った人が17.9%いた。しかし、高校に通った人は2.3%、大学だと2.3%と減る。義務教育を終えているためかもしれない。現在市内に職場がある人は17.9%、過去に市内の職場に勤めたことがあるのは12.2%だった。現在市内に夫または妻の職場がある人も、10.3%いた。

その他6.9%のうち、結婚して転入した人が2.7%いた。ただし、どれも当てはまらない人も、40.8%いた。

その他の自由回答では、「父母の実家」「近くの市の大学へ通っていた」「学校卒業後、引っ越してきた」「区内の学校・区内の職場」「子供が市内の学校に通学」「子供、大人に絵の教室をひらいている」「仕事で転勤」「住居、社宅がある」「最寄り駅が吉祥寺」「友人が住んでいた」「過去に住んでいた」「専門委員」といった関わり方をしていった。

(3) 同居 (問 26)

同居している人について問26で、「あなたは現在、どなたと一緒にすんでいますか(義理も含めてあてはまる方すべて)」と質問した。選択肢は「夫または妻」「子供」「父母」「兄弟姉妹」「祖父母」「孫」「一人暮らし」「その他」の8個であった。

全体では、夫または妻62.8%、子供40.6%、父母23.0%、兄弟姉妹9.6%、祖父母1.9%、孫0.8%となっていた。一人暮らしは16.5%いた。

また、同居人が「子供と孫」、「父母と子供」、「父母と祖父母」の3つの場合に限り、「三世代世帯」とした。三世代世帯は、8.3%あった。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	生まれ	小学校	中学校	高校	大学	過去に 職場
市内で生まれた						
市内の小学校に通った	0.77**					
市内の中学校に通った	0.76**	0.89**				
市内の高校に通った	0.14*	0.24**	0.26**			
市内の大学に通った	- 0.07	- 0.01	- 0.07	- 0.02		
過去に市内の職場に勤めた	0.13*	0.13*	0.10	0.02	0.02	

第 3 節 関連

関連をまとめると、表になった(ただし一部について)。ここから、仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (市内に長く住んでいる人ほど、武蔵野市で生まれ育っただろう) 肯定された。市内に長い人ほど、有意に市内で生まれているし、市内の小学校や中学校に通っていた。ただし、高校、大学、職場については、市内に長い人とそうでない人の間に差がなかった。

仮説 2 (市内で生まれ育った人ほど、市内に職場があるだろう) 部分的に肯定された。市内で生まれた人は、有意に市内の小学校、中学校、さらには高校に通っていた。大学との関連はなかった。また、市内生まれの人は、有意に過去に市内で勤めていたが、現在の職場とは無関係だった。

仮説 3 (市内で生まれ育った人ほど、三世帯世帯になっているだろう) 肯定された。もともと市内に住んでいた人が、子供に代々家を受け継いでいくため、三世帯で同居することが多いのだろう。

第 4 節 まとめ

この章では、市民がどれくらい武蔵野市と関わってきたのかを検討した。考察の結果、市内で生まれた人は、高校まで市内を通うことが多く、さらにこれまで市内に職場のあることが多かった。このように、武蔵野市に生まれた人は、その後も武蔵野市で過ごすことが多いようである。

また、市内で生まれ育つと、三世帯で同居することが多かった。武蔵野市では、三世帯世帯が全国平均 9.7% とほぼ同じく、8.3% ある。現在、日本を含めて先進諸国は高齢化社会に向かっている。しかし、もし高齢者だけの世帯が増えると、介護などの問題が生じるだろう。とはいえ、今後核家族から三世帯同居が増えていけば、人びとの間に多様な価値観を涵養することにもなるだろう。



第6章 武蔵野市への愛着

—市民に愛され街—

大竹志世理（班長），菊池絢子，菊地千由希，酒井英典

主な集計結果

- ・ほぼ全員が，吉祥寺を好きだった。
- ・9割以上の人が武蔵野市を好きで，ほぼ9割の人が武蔵野市に住み続けたいと考えていた。

第1節 問題関心

この章では，市民が吉祥寺や武蔵野市に対してどのくらい愛着をもっているのかを調べる。そうすることで，武蔵野市がより愛されるための指針を提案できるかもしれない。

NHK 放送文化研究所「日本人の意識調査」（2003年）によれば，日常生活について，地域環境に満足している人は1973年だと政令指定都市で45%，町村で69%と，差が大きかった。ところが，2003年には74%と76%と，ほぼ同じになった。都市では地域との関わりが希薄化していると考えられがちだが，かならずしもそうではないようである。そこで，以下の仮説を立てた。

- 仮説1** 女性ほど，また若い人ほど，吉祥寺が好きだろう。
- 仮説2** 武蔵野市に長く住んでいる人ほど，武蔵野市が好きだろう。
- 仮説3** 武蔵野市が好きな人ほど，武蔵野市に住み続けたいだろう。

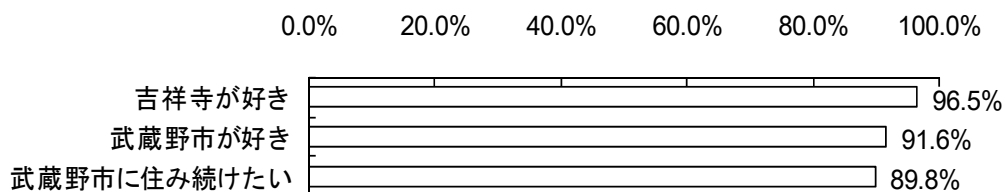
第2節 集計結果

(1) 吉祥寺が好き（問4ア）

武蔵野市への愛着について問4で，「あなたには，以下のことについてどのくらい当てはまりますか」として，吉祥寺が好きか，武蔵野市が好きか，武蔵野市に住み続けたいかについて質問した。選択肢は，「はい」を6，「いいえ」を1として，1～6の間で選択してもらった。以下では4～6を「好き」，1～3を「好きではない」とまとめた。

吉祥寺が好きな人は，全体で96.5%いた。ほぼ全員が，吉祥寺が好きであることがわかった。男女でくればると，男性が93.6%，女性が98.6%と，女性の方がやや多い。年齢別でくればると，30・40代が100%であり，全員が満足していた。市内在住年数をみても，9年以下の人も，10年以上の人も96%台であり差は見られなかった。

問4 あなたには、以下のことがどれくらい当てはまりますか。(○はそれぞれ1つ)



武蔵野市への愛着

(2) 武蔵野市が好き (問4イ)

全体では91.6%が、武蔵野市を好きだった。男女で比べると、男性が89.1%で女性が93.3%であり、女性の方がやや多い。年齢別で比べると、40代が94.6%と最も多く、ついで60代が93.2%である。それに対し20代が87.8%で最も少なかった。結婚している人は93.0%が好きと答えているのに対し、結婚していない人が88.8%であった。市内在住年数を比べると、9年以下の人が89.4%で、10年以上の人が92.8%とやや高くなっている。

(3) 武蔵野市に住み続けたい (問4ウ)

最後に「武蔵野市に住み続けたい」と答えた人は、全体で89.8%いた。男女で比べると、男性88.8%、女性91.3%であり、女性のほうがやや多い。年齢別で比べると、40代が94.6%と最も多く、20代の82.9%で最も少なかった。市内在住年数をみると、9年以下の人が86.2%に対し、10年以上の人は92.2%とやや多い結果となっていた。

第3節 関連

関連をまとめると、表となった。どの変数の間にも、強い関連があった。したがって、仮説は以下のように検証された。

仮説1 (女性ほど、また若い人ほど、吉祥寺が好きだろう) 部分的に肯定された。女性ほど、有意に吉祥寺を好きだった。しかし、年齢では違いはなく、若い人も年配の人も吉祥寺を好きなようである。

仮説2 (武蔵野市に長く住んでいる人ほど、武蔵野市が好きだろう) 肯定された。長く住むうちに、武蔵野市のよさを実感していくためだろう。

仮説3 (武蔵野市が好きな人ほど、武蔵野市に住み続けたいだろう) 肯定された。好きだからこそ、住み続けたいのだろう。

第4節 まとめ

この章では、市民が吉祥寺や武蔵野市に対してどのくらい愛着をもっているのかを検討した。考察の結果、市民は吉祥寺や武蔵野市に対して強い愛着を抱いていることがわかった。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	吉祥寺が好き	武蔵野市が好き	住み続けたい
吉祥寺が好き			
武蔵野市が好き	0.62**		
武蔵野市に住み続けたい	0.53**	0.79**	

かつて、農村部で「町おこし」が行われ、現在は都市部でも「地域活性化」が求められている。これらは一般的に、ターゲットを限定することで街づくりを効果的に行おうとしてきた。たとえば、渋谷は若者向けの街であるし、巣鴨であれば高齢者を指向している。

しかし、本来ならすべての住民にとって、住みよい街を作ることが肝要だろう。年齢や性別によって、地域に求めることが違ってくるはずである。吉祥寺や武蔵野市は、すべての年齢層から支持を得ているということが、今回の調査でわかった。武蔵野市はこれからも、特定の人たちをターゲットにするよりは、あらゆる人びとを意識して、バランスが取れた政策を維持していくことが効果的だろう。



第7章 武蔵野市への期待

—市政アンケートを参考にして—

田中英恵（班長），後宮裕子，小川美和子，関根亜実

主な集計結果

- ・武蔵野市民のうち，4割の人が安全な市民生活を期待していた。
- ・つづいて，3割の人が自転車対策や高齢者福祉を希望していた。

第1節 問題関心

この章では，武蔵野市民が市にどのような政策を重点的に進めてほしいかを調べる。近年は，少子高齢化や地球環境の悪化といったさまざまな問題があるからである。

武蔵野市役所は毎年，市政アンケートを行っている。それによれば，ごみ減量，安全な市民生活，学校教育などの中で，高齢者福祉の推進が1993年から2003年まで1位であった。また，健康増進施策も順位を上げつつある。本格的な高齢化社会を迎える中で，健康で安心した生活を送りたいという期待がみえる。

2007年度市政アンケートの結果では，上位5つは安全な市民生活の確保41.9%，高齢者福祉の推進36.3%，自転車対策の推進32.9%，災害に強いまちづくり24.2%，子ども施策・青少年施策の充実17.9%となっていた。そこで，われわれは以下の仮説を立てた。

仮説1 年配の人ほど，高齢者福祉に期待するだろう。

仮説2 男性ほど，車を自分で運転するので，交通システムに期待するだろう。

仮説3 交通システムに期待する人ほど，地域の自然環境に関心が向くため，緑化に期待するだろう。

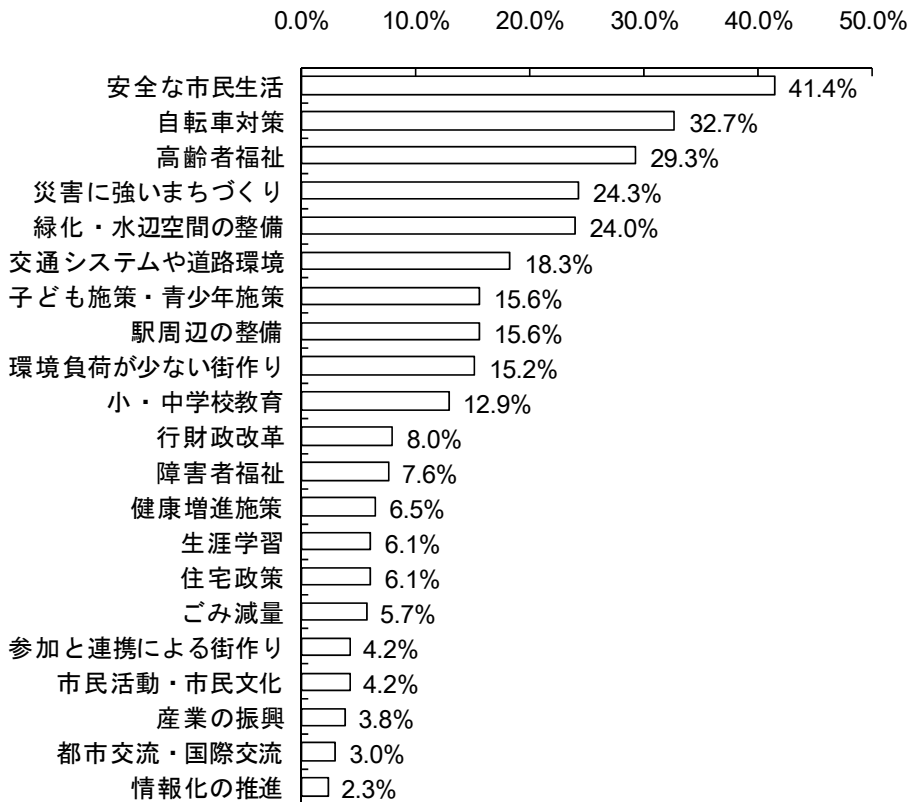
第2節 集計結果

(1) 武蔵野市への期待（問5）

武蔵野市への期待について問5で，「武蔵野市に重点的に進めてほしいことを3つ選ぶとすれば，何ですか」と質問した。選択肢は，高齢者福祉，障害者福祉など21項目あった。質問も選択肢も，市政アンケートとまったく同じになっている。

全体では，安全な市民生活と答えた人が一番多く41.4%いた。次に，自転車対策32.7%，高齢者福祉29.3%とつづく。この結果は，おおむね市が実施した市政アンケートとも，一致し

問5 武蔵野市に重点的に進めてほしいことを3つ選ぶとすれば、何ですか。(〇は3つまで)



武蔵野市への期待(3つまで)

ていた。

男女で比べると、男女共に、安全な市民生活への関心がトップだった。女性では小・中学校教育と答える人が多いのにくらべ、男性では交通システムや道路環境と答える人が多かった。年齢別で比べると、20代では災害に強い街作りと自転車対策、30代では緑化・水辺空間の整備、40代以上では安全な市民生活と、年代によって期待する項目にばらつきが見られた。

結婚している人は、高齢者福祉に関心があるが32%で、結婚していない人の23%より高かった。また、子どもの教育に関する期待が比較的高く、小中学校教育や子ども施策・青少年施策に対する関心はとくに高い。一方、結婚していない人の関心事は、住宅施策や交通システムといった、自分の生活環境の充実に対する期待が、結婚している人より多かった。市内在住年数で比べると、9年以内の人は小中学校教育と住宅政策への関心が高いのにくらべ、10年以上だと安全な市民生活や環境負荷が少ない街づくりといった、安心して暮らせる生活環境に対する期待が高かった。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	安全	自転車	高齢者	災害	緑化	交通
安全な市民生活						
自転車対策	- 0.11					
高齢者福祉	- 0.03	- 0.11				
災害に強いまちづくり	- 0.08	- 0.15*	- 0.07			
緑化・水辺空間の整備	- 0.16**	- 0.13*	- 0.07	- 0.05		
交通システムや道路環境	- 0.06	0.03	- 0.11	- 0.13*	- 0.24**	

第3節 関連

武蔵野市への期待について関連をまとめると以下の表となった(上位6つについて)。ここから、仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (年配の人ほど、高齢者福祉に期待するだろう) 肯定された。20代が14.6%であるのに対し、60代では41.4%と、約3倍の違いがみられた。

仮説 2 (男性ほど、買い物などで市内を出歩く機会が多いため、交通システムに期待するだろう) 肯定された。

仮説 3 (交通システムに期待する人ほど、地域の自然環境に関心が向くため、緑化に期待するだろう) 否定された(逆の関連があった)。これはおそらく、便利さと自然環境の充実が、人びとの意識の中で両立しにくいからだろう。

第4節 まとめ

この章では、武蔵野市民が市に重点的に進めてほしい政策は何かという問題を検討した。多くの人が、自転車対策や交通システムの整備など、快適で安全な市民生活を送りたいと考えていることがわかった。また、井の頭公園があるためか、緑化・水辺環境の充実を期待する人も多かった。

一方で、身近な問題に対しては期待が強いが、自分とはあまり関わりがないことには、やや関心が遠ざかるようでもあった。たとえば、自転車対策には多くの人が期待しているが、産業振興や国際交流には期待が低かった。

とはいえ、身近な問題にも大きな問題にも、それぞれ期待している人がいることがわかった。バランスのとれた対策づくりが、今後は必要となってくるのだろう。



第8章 ライフスタイル

一人びとの多様な日常生活―

小倉由衣（班長）、木内彩十子、滝口美穂、本間芙由子、渡辺悠介

主な集計結果

- ・1週間のうち、平均して携帯電話を5.6日使用し、パソコンは4.3日使っていた。
- ・コーヒーは平均4.3日、飲酒は2.6日、タバコは1.5日であった。

第1節 問題関心

この章では、人びとがどのようなライフスタイルを送っているかを調べる。その結果、人びとの多様なライフスタイルを明らかにできるだろう。

タバコを例にとると、厚生労働省「国民栄養・健康調査」（2004年）によれば、日本人男性の67.3%の人が、習慣的な喫煙経験がある。女性では16.8%が該当して、年齢別にみると20代と30代が20%を超えている。このように、喫煙については、男女で習慣しているかが大きく異なる。飲酒、ギャンブル、パソコンなどについても、性別や年齢で異なることが予想できる。そこで、以下の仮説を立てた。

仮説1 年配の人ほど、運動をよくするが、携帯電話は使わないだろう。

仮説2 男性ほど、お酒をよく飲み、タバコをすい、パチンコにいこうだろう。

仮説3 携帯電話をよく使う人ほど、パソコンをよく使うだろう。

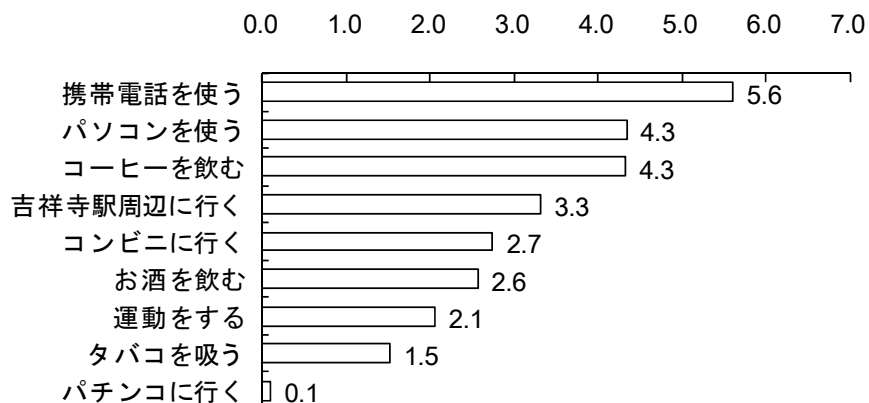
第2節 集計結果

(1) 1週間の生活習慣（問12）

人びとのライフスタイルについて問12で、「あなたは、以下のことを一週間にどれくらいしますか」と質問した。項目は「吉祥寺駅周辺に行く・通る」「運動をする」「携帯電話・PHSを使う」「パソコンを使う」「コンビニに行く」「パチンコに行く」「コーヒーを飲む」「お酒を飲む」「タバコを吸う」についてであった。選択肢は「毎日」「6日」「5日」「4日」「3日」「2日」「1日」「しない」の8つだった。

平均日数は、携帯電話5.6日とパソコン4.3日とコーヒー4.3日が多かった。つづいて、吉祥寺駅周辺に行く3.3日、お酒2.6日、コンビニ2.8日、運動2.1日、タバコ1.5日となり、パチンコは0.1日となった。全体的に携帯電話を使う日数が多く、パチンコに行く日数が少

問 12 あなたは、以下のことを一週間にどれくらいしますか。(〇はいくつでも)



1週間の生活習慣（～日）

ない。携帯電話・PHSは現代の生活に欠かせない存在になっているが、パチンコはそうでもないからだろう。

男女別にみると、男性では携帯電話5.8日が一番多く、二番目に多いのはパソコン5.5日であった。女性では携帯電話5.5日がやはりトップで、二番目にコーヒー4.4日であった。

年齢別にみると、20代30代は携帯電話が一番多く、つぎにパソコンであった。40代50代は携帯電話が最多で、二番目にコーヒーだった。60代はコーヒーが4.0日で一番多く、二番目に携帯電話3.8日がつづいた。

第3節 関連

ライフスタイルについての関連をまとめると、表となった（上位6つについて）。おおくのものの間で、関連があった。したがって、仮説は以下のように検証された。

仮説 1（年配の人ほど、運動をよくするが、携帯電話は使わないだろう） 肯定された。携帯電話については、ここ10年ほどで登場したため、馴染むのにすこし時間がかかるからだろう。

仮説 2（男性ほど、お酒をよく飲み、タバコをすい、パチンコにいくだろう） 肯定された。どれも、有意な関連となっていた。

仮説 3（携帯電話をよく使う人ほど、パソコンをよく使うだろう） 肯定された。また、相関関係から、携帯とパソコンの使用は多くのことと相関していることがわかった。これらが、現代の生活に欠かせないものとなっているからだろう。ただし、携帯電話使用と吉祥寺にいくこととは、無関係だったし、パソコン使用とコーヒーを飲むことも無関係だった。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	携帯電話	パソコン	コー ヒー	吉祥寺駅	コンビニ	お酒
携帯電話を使う						
パソコンを使う	0.42**					
コー ヒー を飲む	0.18**	0.09				
吉祥寺駅周辺に行く・通る	0.01	0.15*	0.03			
コンビニに行く	0.28**	0.29**	0.14*	0.14*		
お酒を飲む	0.14*	0.26**	0.17**	0.11	0.10	

第 4 節 まとめ

この章では、人びとがどのようなライフスタイルを送っているかを検討した。考察の結果、人びとは年齢や性別によって、多様な日常生活を送っていることが明らかになった。たとえば、年配の人ほど運動するし、若い人ほど運動不足のようである。男性ほど飲酒や喫煙をよくして、女性はそれらをあまりしないようであった。

今後は、そうした多様なニーズに応えられるよう、街づくりや政策がきめ細かく対応していく必要があるだろう。その結果、街がますます活性化し、人びとの生活も豊かになっていくかもしれない。



第9章 レジャー

—海外旅行と東京ディズニーランド—

土居絵里子（班長），古賀仁美，前島なつき，水落麻美，森田恵未

主な集計結果

- ・海外旅行には，平均して 8.8 回行ったことがある．
- ・東京ディズニーランドには，6.0 回だった．

第1節 問題関心

この章では，どういう人がどれくらいレジャーを楽しんでいるかを調べる．この問題を調べることで，より充実した余暇の過ごし方を提案できるかもしれない．

総務省統計局「社会生活基本調査」（2006年）によれば，男女共にほとんどの年齢で，2001年までは仕事時間が減少していたが，それ以降再び増加している．その結果，休養などの自由な時間が減少している．とはいえ，時間にゆとりがなくても，余暇への関心は高い．内閣府「国民生活に関する世論調査」によれば，今後の生活において最も力を入れたいのは，「レジャー・余暇生活」であった．その中では，海外旅行が1位であった．

なお，2007年に海外旅行者は約1,754万人いて，男性56.5%でやや多かった（国土交通省「観光白書」）．東京ディズニーランドは，1983年にオープンしてから，多くの人を集めてきた．2006年の来場者数は，2,582万人で，女性72.6%であった（オリエンタルランド統計）．2001年には，隣接して東京ディズニーシーがオープンして，2006年に通算4億人の来場者を記録した．そこで，以下の仮説を立てた．

仮説1 年配の人ほど，機会が多いので，海外旅行に行くだろう．

仮説2 女性ほど，また若い人ほど，同性どうしていく機会が多いので，東京ディズニーランドに行くだろう．

仮説3 海外旅行にいく人ほど，レジャーに積極的なので，東京ディズニーランドにいくだろう．

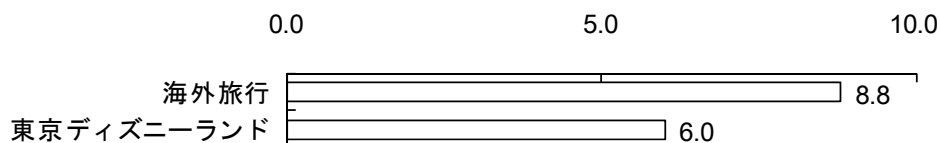
第2節 集計結果

(1) 海外旅行（問15）

海外旅行について，問15で「あなたはこれまで，海外旅行に何回くらい行ったことがあり

問 15 あなたはこれまで、海外旅行に何回くらい行ったことがありますか（出張も含めて）。

問 16 あなたはこれまで、東京ディズニーランドに何回くらい行ったことがありますか。



レジャー（～回）

ますか」と質問した。全体では、平均 8.8 回だった。男女で比べると、男性が 10.5 回で女性の 7.6 回よりも多い。年齢別で比べると、60 代が 13.1 回と最も多い。結婚している人は、10.7 回で、結婚していない人の 5.4 回を上回る。市内在住年数を比べると、9 年以下の人が 7.7 回にくらべて、10 年以上の人は 9.5 回と多かった。

(2) 東京ディズニーランド（問 16）

次に、問 16 で「あなたはこれまで、東京ディズニーランドに何回くらい行ったことがありますか」と質問した。100 回、200 回と答えた男性がそれぞれ一人ずついたが、偏りをなくするため集計には含めなかった。

全体では、平均 6.0 回だった。男女で比べると、女性が 6.7 回で男性の 5.1 回より多い。年齢別で比べると、20 代が 9.6 回と最も多かった。結婚している人は、5.8 回で、結婚していない人の 6.6 回とくらべてやや少ない。市内在住年数を比べると、9 年以下の人が 7.5 回にくらべて、10 年以上の人は 5.3 回と少なくなっていた。

なお、いっぴんにはディズニーランドは女性に人気がありそうだし、じっさいに平均でみると女性のほうが 1 回以上いつている。しかし、リピーターの中には、男性で 100 回以上いく人が 2 人いたことがわかった。

第 3 節 関連

海外旅行と東京ディズニーランドについての関連をそれぞれまとめると、表となった。ここから、仮説は以下のように検証された。

仮説 1（年配の人ほど、機会が多いので、海外旅行に行くだろう） 肯定された。

仮説 2（女性ほど、また若い人ほど、同性どうしていく機会が多いので、東京ディズニーランドに行くだろう） 肯定された。どちらも、有意な正の相関があった。

仮説 3（海外旅行に行く人ほど、レジャーに積極的なので、東京ディズニーランドに行くだろう） 否定された（関連がなかった）。ディズニーランドには多くの人が行くため、とくに偏りが無いのだろう。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	海外旅行	東京ディズニーランド
海外旅行		
東京ディズニーランド	0.09	

第4節 まとめ

この章では、海外旅行と東京ディズニーランドに着目して、レジャーの過ごし方を調べた。考察の結果、若い人は海外旅行よりも東京ディズニーランドに行くようだった。このことはとくに、女性に顕著のようである。逆に年配者は、海外旅行に行くことが多いようである。また、ディズニーランドに行くからといって、海外旅行に行く、というわけではなかった。担う人たちが、異なるからであろう。

余暇をだれとどのように過ごすか。これから日本が少子高齢化社会に向かうなかで、レジャーの役割はますます増えていくだろう。



第10章 運動

—健康でいるには—

長内はる香（班長），秋山一樹，小澤亜衣子，宮川奈美子，渡辺敦美

主な集計結果

- ・4割の人が散歩を，3割の人がストレッチやヨガを行っていた。
- ・腹筋や背筋が15.2%，ゴルフが11.7%とつづいた。

第1節 問題関心

この章では，人びとがどのように運動に取りくんでいるのかを調べる。そうすることで，健康な生活を送るためのヒントをえることができるだろう。

厚生労働省「簡易生命表」（2005年）によると，日本人の平均寿命は1955年には，男性63.6歳，女性67.8歳であった。しかし2005年になると，男性78.5歳，女性85.5歳に延びている。と同時に，成人病や生活習慣病も増加してきたようである。今後は，ますます高齢化が進むことが，予想されている。

そこで，運動することが，どのように健康に役立っているのかを調べる。笹川スポーツ財団「スポーツ白書」（2006年）によれば，散歩をふだん行っているひとは21.6%いるという。水泳9.3%，テニス3.7%，ゴルフ1.1%などにつづく。これらを踏まえて，以下の仮説を立てた。

仮説1 年配の人ほど，健康に気をつかうので，運動をしているだろう。

仮説2 1つの運動をする人は，他の運動もしているだろう。

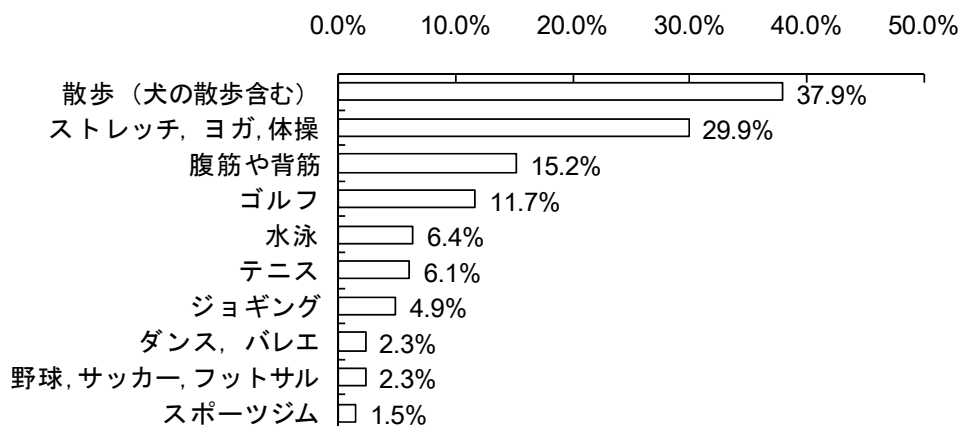
仮説3 運動をしている人ほど，健康状態に満足しているだろう。

第2節 集計結果

(1) 運動（問11）

健康について問11で，「あなたは現在，健康のために何かしていますか（○はいくつでも）」と質問した。選択肢は「散歩」「ストレッチ（ヨガ，体操含む）」「腹筋や背筋」「ジョギング」「水泳」「テニス」「ゴルフ」「その他」「していない」の9つであった。調査後，「ダンス，社交ダンス，フォークダンス，バレエ」「野球，サッカー，フットサル」「スポーツジム」の3つを追加した。

問 11 あなたは現在、健康のために何かしていますか。(〇はいくつでも)



運動

全体では、71.6%の人が何らかの運動をしていた。中でも、散歩をしている人は37.9%で最多だった。これに、ストレッチ29.9%、腹筋や背筋15.2%、ゴルフ11.7%がつづく。

その他の自由回答には、「サイクリング」「ソフトボール」「バレーボール」「バドミントン」「スキューバダイビング」「卓球」「弓道」「剣術」「空手」「乗馬」「登山」といったスポーツが多く挙がっていた。また、「発声」「バランスの良い食事と規則的な生活スケジュール」「マクロビオティック」「ヘルストロン」「農作業」といったことを、健康のためにしている人もいた。

運動をしている人を男女でくらべると、男性75.7%、女性70%と男性の方が多かった。年齢別では、60代の9割が何らかの運動をしているが、若くなるにつれて減っていった。結婚している人は、78.5%が運動をしており、結婚していない人64.8%とくらべやや高かった。ゴルフをしていると回答した人の77.4%が、結婚していた。市内在住年数をくらべてみると、9年以下の人のうち59.1%が運動しているのに対して、10年以上の人では79.8%と20ポイント増えている。

第3節 関連

健康についての関連をまとめると、表となった(上位6つについて)。男性ほど、なんらかの運動をしていた。また、市内10年以上在住している人と既婚者も、運動している。ここで、仮説を検証していく。

仮説1 (年配の人ほど、健康に気をつけて、運動をしているだろう) 肯定された。20代では40%が運動していたが、年齢とともに増えて、60代だと92%が運動をしていた。

仮説2 (1つの運動をする人は、他の運動もしているだろう) 否定された(ほとんどの組みあわせで関連がなかった)。どの運動をするのかは、人によって異なって、どれかに特化し

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	散歩	ストレッチ	腹筋	ゴルフ	水泳	テニス
散歩 (犬の散歩含む)						
ストレッチ, ヨガ, 体操	0.12					
腹筋や背筋	0.00	0.32**				
ゴルフ	0.05	0.02	- 0.02			
水泳	0.05	0.00	0.02	- 0.10		
テニス	- 0.17**	0.01	0.03	0.10	0.00	

ているようである。ただ、ストレッチをする人は、腹筋を有意にしていた。テニスをする人は、不思議なことに、散歩を有意にしていなかった。

仮説 3 (運動をしている人ほど、健康状態に満足しているだろう) 否定された (関連がなかった)。つまり、運動をしている人もしていない人も、同じくらい自分の健康に満足していた。ただし、個別にみると、ゴルフをしている人だけが、有意に健康に満足している。

第 4 節 まとめ

この章では、人びとが運動にどのように取りくんでいるのかを検討した。考察の結果、健康のために何かしている人は 266 人中 191 人で、多くの人は何らかの運動をしていることがわかった。また、器具や費用のかからない運動に、人気があることも明らかになった。ただし、複数の運動を組みあわせるというよりは、好きなものに特化することが多いようである。

調査を始めるにあたり、私たちは「若者の方が体力があるので運動をするのではないのか」と予想していたが、調査結果では年配者ほど運動をしていた。これは、若い人ほど仕事や家事が忙しくて運動時間を取りにくいことや、運動のかわりにサプリメントを飲むからかもしれない。

健康を維持するには、若いころからの継続が役立つだろう。そのために、散歩やストレッチなど、手軽なことから始めると、効果的かもしれない。



第11章 ストレス

—溜めないためには—

本多遊馬（班長）、榎並麻子、小櫃さおり、増田彩子、三ツ木由香

主な集計結果

- ・ 8割以上の人々が、生活や家庭生活に満足していた。とくに、市の住みやすさには9割以上の人が満足している。
- ・ 8割の人が1週間の間にストレスを感じており、5割の人が憂うつだ感じていた。

第1節 問題関心

この章では、人びとが生活の中でどれくらいストレスを感じているかを調べる。この問題を調べることで、今後人びとが心身共に豊かな生活を送るには、どうすればよいかを提案できるかもしれない。

総務省「国民生活基礎調査」（2001年）によれば、ふだん何らかの悩みやストレスを感じている人は49.4%、感じていない人は43.6%で、ストレスを感じる人の方がやや多かった。悩みやストレスの要因は、仕事、自分の健康、収入、老後の収入の順に多く、金銭面での不安が目立つ。そこで、以下の仮説を立てた。

仮説1 年配の人ほど、ゆとりをもって生活できるので、生活全体に満足しているだろう。

仮説2 女性ほど、ストレスが多いだろうし、ふと泣きたくなる人が多いだろう。

仮説3 生活全体に満足している人ほど、ストレスが少ないだろうし、憂うつになることも少ないだろう。

第2節 集計結果

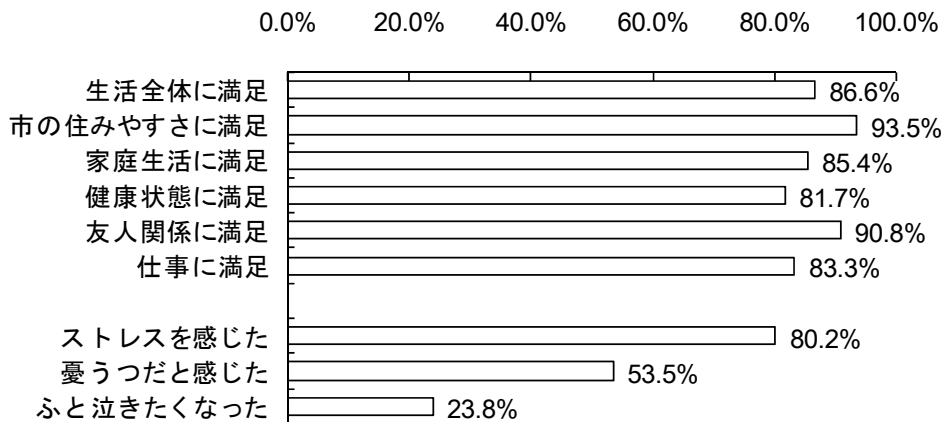
(1) 満足（問13）

問13で、「あなたは現在、満足していますか」として、生活全体、市の住みやすさ、家庭生活、健康状態、友人関係、仕事（パートも）、という6つについて質問した。選択肢は「とても満足」「満足」「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満」「不満」「とても不満」の6つであった（仕事については選択肢に「働いていない」がある）。

分析では、「とても満足」「満足」「どちらかといえば満足」を満足、「どちらかといえば不満」「不満」「とても不満」を不満とした。このうち、満足と答えた人の比率を調べる。

問 13 あなたは現在、以下のことに満足していますか。(○はそれぞれ1つ)

問 14 あなたには、この1週間に以下のことがありましたか。(○はそれぞれ1つ)



満足、ストレス

生活全体では、満足している人が 86.6%いた。男女でほぼ変わらない。年齢別でくまると、20代が 75.0%で、年代が上がっていくごとに満足度は高くなっていき、60代では 96.6%が満足している。既婚者では、90.0%が満足している。

市の住みやすさについては、93.5%が満足していた。男女で差はない。年齢別でくまると、40代が一番高く 96.4%だった。

家庭生活については、満足が 85.4%いた。男女でくまると、ほとんど差がない。年齢別でくまると、20代のみ低く 67.5%だった。既婚者は 90.1%、未婚者は 76.1%が満足しており、大きな差が見られる。

健康状態については、満足が 81.7%いた。性別では、女性 84.6%、男性 77.2%で女性の方が満足している。年齢別でくまると、年代が上がるにつれ上昇した。市内在住年数が 10年以上は 83.8%、9年以内 77.4%と 10年以上の方が高い。

友人関係では、満足と答えた人が 90.8%いた。男女でくまると、女性が 92.6%、男性が 88.1%で女性のほうがやや満足している。年齢別でくまると、すべての年代にわたって約 9割が満足している。

仕事については、全体で満足 64.6%で、男女に違いはなかった。年齢は、あがるにつれて満足も上昇した。

(2) ストレス (問 14)

さらに、問 14で「あなたには、この一週間に以下のことがありましたか」として、ストレスを感じたことがあるか、憂うつだと感じたことがあるか、ふと泣きたくなったことがあるかについて質問した。選択肢は、「ある」「ない」の 2つであった。このうち、あると答えた人の比率を調べる。

ストレスについては、あると答えた人が 80.2%いた。男女でくまると、男女共に 8割ほどの人がストレスを感じていると答えている。年齢別でくまると、年代が上がるにつれて

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	生活全体に満足	市の住みやすさに満足	ストレス	憂うつ
生活全体に満足				
市の住みやすさに満足	0.48**			
ストレスを感じた	- 0.27**	- 0.20**		
憂うつだと感じた	- 0.27**	- 0.22**	0.48**	

減っていく。市内在住年数は 9 年以内の人が 86%とやや高い。

憂うつだと感じたことがあるかでは、53.5%が該当した。男女でくらべると、男性の方がやや多かった。年齢別でくらべると、40代が 45%と最も低い。

ふと泣きたくなったことがあるかについては、あると答えた人が 23.8%いた。男女でくらべると男性が 1.5 割程度なのに対して、女性は 3 割強と差がみられた。年齢別でくらべると、20代が 38%と最も高い。

第 3 節 関連

満足度とストレスについての関連をまとめると、表となった(ただし一部について)。その結果、すべての間で有意な関連があった。満足感が、ストレスとふかく結びついていることが、わかる。ここから、仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (年配の人ほど、ゆとりをもって生活できるので、生活全体に満足しているだろう) 肯定された。ただし、個別にみると、市の住みやすさ、健康状態、友人関係に満足していることは、年齢と無関係であった。

仮説 2 (女性ほど、ストレスが多いだろうし、またふと泣きたくなることが多いだろう) 部分的に肯定された。女性ほど、有意にふと泣きたくなるが多かった。しかし、ストレスや憂うつとは、無関係だった。

仮説 3 (生活全体に満足している人ほど、ストレスが少ないだろうし、憂うつになることも少ないだろう) 部分的に肯定された。生活に満足している人ほど、有意に憂うつにならないし、ふと泣きたくなることもなかった。しかし、ストレスとは無関係だった。ただし、家庭に満足していたり、仕事に満足している人は、ストレスが有意に減った。

第 4 節 まとめ

この章では、人びとが生活に対してどれくらい満足し、またストレスを感じているかを調べた。武蔵野市では、性別や年齢を問わず 8 割以上の人が、生活の各側面で満足していることがわかった。と同時に、ストレスを感じている人も 8 割近くいた。

考察の結果、女性ほどストレスをためやすいことがわかった。とはいえ、家庭に満足して

いたり，仕事に満足している人は，ストレスを減らすことができるようである。

現代社会では，人間関係や仕事から，人びとは多くのストレスを抱えていることだろう。今回の調査から，ストレスをできるだけ蓄積しないためには，家庭や仕事で十分に満足を与えることが大切だとわかった。そのためには，仕事と家庭のバランス（ワークライフバランス）をうまく保つことが，不可欠なのだろう。



第12章 メディアとの関わり

—携帯電話とパソコンに着目して—

黒田絵理佳（班長）、内山彩野、北村達行、渡辺ともみ

主な集計結果

- ・ 8割の人が携帯電話でメールを使い、3割の人がインターネットを利用していた。
- ・ パソコンでメールを使う人は6割で、インターネットは7割いた。

第1節 問題関心

この章では、人びとがどのようにメディアと関わっているのかを、パソコンと携帯電話に焦点をあてて調べる。近年、パソコンと携帯電話が急速に普及してきたからである。人によっては、これらがないと生活がたちいかないとすら、感じるかもしれない。

総務省「通信利用動向調査報告書：世帯編」（2006年）によると、世帯における携帯電話の保有率は1999年の64.2%から4年間で93.9%になった。現在では、ほぼすべての家庭で1人は携帯電話をもっていることになる。同様にパソコンについては、1999年の37.7%から2005年には80.5%となり、8割の人びとが自宅でパソコンを使える。そこで、以下の仮説を立てた。

仮説1 女性ほど、また若い人ほど、携帯電話を使うだろう。

仮説2 男性ほど、また若い人ほど、パソコンを使うだろう。

仮説3 携帯電話を使う人ほど、パソコンを使うだろう。

第2節 集計結果

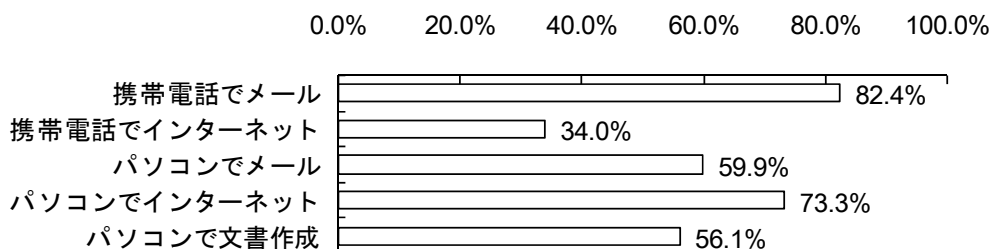
(1) メディアとの関わり（問10）

メディアとの関わりについて、問10で「あなたは現在、以下のものを利用していますか」と質問した。選択肢は「携帯電話・PHSでメール」「携帯電話・PHSでインターネット」「パソコンでメール」「パソコンでインターネット」「パソコンで文書作成」「利用していない」の6つであった。以下では、携帯電話という言葉で、PHSも含めることとする。

全体では、携帯電話でメールを使う人が82.4%、携帯電話でインターネットを使う人が34.0%いた。パソコンでは、インターネット利用者が73.3%、メール利用者が59.9%、文書作成をする人が56.1%いた。どれも利用していない人は、9.5%であった。

男女で比較すると、わずかに女性の方が携帯メールを多く利用していたが、他のものは男

問 10 あなたは現在、以下のものを利用していますか。(○はいくつでも)



メディアとの関わり

性が多く利用していた。また、「利用していない」人が、男性より女性に2倍以上多かったのが印象的であった。

年齢別に比較すると、どれも20代が一番利用しており、60代が一番利用していなかった。いずれも30%以上の差があった。とくに、20代が全員なにかのメディアを利用しているのに対して、60代の27.6%がどれも利用していなかった。市内在住年数で比較してみると、9年以下の人の方がパソコン、携帯電話ともに多く利用していた。

第3節 関連

メディアとの関わりについての関連をまとめると、表となった。すべての変数の間で、関連があることがわかる。携帯電話やパソコンを使う人は、さまざまな場面で使いこなしていることが、予想できる。ここから、仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (女性ほど、また若い人ほど、携帯電話を使うだろう) 部分的に肯定された。若い人ほど、メールでもインターネットでも、有意に携帯電話を利用していた。しかし、男女では違いがなく、同じように利用しているようだ。

仮説 2 (男性ほど、また若い人ほど、パソコンを使うだろう) 肯定された。男性ほど、メール・インターネット・文書作成のどれでも、有意にパソコンを利用していた。同様に、若い人ほどそうだった。男性のほうが、仕事でパソコンを利用することが多いためだろう。

仮説 3 (携帯電話を使う人ほど、パソコンを使うだろう) 肯定された。携帯電話を日常的に使う人は、パソコンもよく使い、目的によって使い分けているのだろう。

第4節 まとめ

この章では、人びとがどのようにメディアを利用しているのかを調べた。考察の結果、全体的には携帯電話もパソコンも普及率が高いが、その中でもメディアを使える人と、そうでない人が存在していることがわかった。

とくに、年配者がメディアの進化に追いついていないようである。その一方で、携帯とパソコンを使い分けている人びともいる。こうした二極化は、情報格差(またはデジタルデバ

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	携帯電話 でメール	携帯電話 でネット	パソコン でメール	パソコン でネット	パソコン で文書
携帯電話でメール					
携帯電話でインターネット	0.27**				
パソコンでメール	0.22**	0.31**			
パソコンでインターネット	0.36**	0.29**	0.70**		
パソコンで文書作成	0.24**	0.26**	0.61**	0.49**	

イド) とよばれ、社会問題にもなりつつある (木村忠正『デジタルデバイドとは何か』2001年, 岩波書店)。

では、どうすればよいだろうか。2008年1月現在で、武蔵野市の人口134,235人のうち、65歳以上の高齢者は25,773人おり、19.1%となっている。高齢者に対して、これ以上情報格差が進まないように、国や自治体が積極的に紙媒体などで情報提供することができるだろう。あるいは、高齢者も地域や趣味の仲間と、携帯電話やパソコンをとおしてつながることができるかもしれない。



第13章 家族

—家事分担の実態と意識—

浅野慶太（班長），蒔敬子，高坂しのぶ，塚原絵里子

主な集計結果

- ・家事のうち，平均すると6割を自分で行っていた。
- ・「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という意見には，賛成と反対がほぼ半々だった。

第1節 問題関心

この章では，人びとが家庭生活をどのように送っているのかについて，とくに夫婦の役割に着目して調べる。この問題を調べることで，現代の家族についての実態と意識を，明らかにできるだろう。

厚生労働省「家内労働概況調査」2007年によれば，既婚女性のうち家事負担をしている人は減る傾向にあり，90.7%であった。多くの女性が，いまだに家事を負担しているが，男性が家事をすることも増えているようである。では，家事における男女差は，今後も少しずつ埋まっていくのだろうか。そこで，以下の仮説を立てた。ここで「夫婦の役割」とは，夫が外で働き，妻は家庭を守るという，伝統的な考え方をさす。

仮説1 女性ほど，また年配の人ほど，専業主婦として，家事を負担しているだろう。

仮説2 男性ほど，また年配の人ほど，夫婦の役割に賛成するだろう。

仮説3 家事を負担している人ほど，夫婦の役割に反対するだろう。

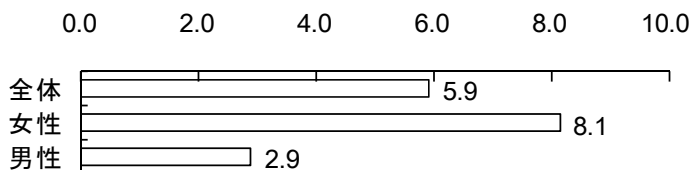
第2節 集計結果

(1) 家族との関わり（問17）

問17で，「あなたは以下のことを，一週間にご家族とどれくらいしますか。同居していないご家族も含めてお答えください」として，どのくらい夕食を一緒に食べるか，テレビを一緒にみるかを質問した。選択肢は「毎日」「6日」「5日」「4日」「3日」「2日」「1日」「しない」の8つであった。

夕食については，全体では4.2日であった。男女でくらべると，女性4.6日に対し，男性3.7日であった。年齢別にみると，60代の5.3日が最も多く，20代の2.6日が最も少ない。結

問 18 ご家庭の家事のうち、あなたはどれくらい行っていますか。(〇は1つ)



家事負担 (~ 割)

問 19 以下の意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(〇は1つ)

(ア) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



夫婦の役割に賛成

婚している人は 5.0 日で、結婚していない人は 2.5 日であった。市内在住年数をくらべると、9 年以下の人は 4.6 日で、10 年以上の人は 3.4 日であった。

テレビを一緒にみるについては、全体では 4.2 日であった。男女でくらべると、女性 4.5 日に対し、男性 3.8 日であった。年齢別だと、60 代の 5.0 日が最も多く、20 代の 2.4 日が最も少ない。結婚している人は 5.0 日で、結婚していない人は 2.5 日であった。市内在住年数をくらべると、9 年以下の人は 3.5 日で、10 年以上の人は 4.6 日であった。

(2) 家事負担 (問 18)

家事負担について問 18 で、「ご家庭の家事のうち、あなたはどれくらい行っていますか」と質問した。選択肢は「ほとんど全部」「9 割」「8 割」「7 割」「6 割」「5 割」「4 割」「3 割」「2 割」「1 割」「ほとんどしない」の 11 個であった。

全体では 6.0 割であった。男女でくらべると、男性 2.9 割に対し、女性 8.1 割で圧倒的に高かった。年齢別でくらべると、60 代の 6.5 割がもっとも高く、若くなるにつれて家事負担が減っている。結婚している人は 6.1 割で、結婚していない人 5.5 割にくらべてやや高い。市内在住年数を調べると、9 年以下だと 6.8 割で、10 年以上の 5.4 割よりやや高かった。

(3) 夫婦の役割への意見 (問 19 ア)

夫婦の役割 (性別役割分業) については、問 19 で「以下の意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか」として、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という意見について質問した。選択肢は「とても賛成」「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」「とても反対」の 6 つであった。「とても賛成」「賛成」「やや賛成」を「賛成」としてまとめる。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	家事負担	役割に賛成	男性	年齢
家事負担				
夫婦の役割に賛成	0.03			
男性	- 0.69**	0.13*		
年齢	0.12	0.12	- 0.03	

全体では、賛成が 48.3%、反対が 51.7%だった。男女でくらべると、男性は賛成 55.5%と多く、女性は反対 57.4%のほうが多かった。年齢別でみると、20代は賛成 38.0%、30代は賛成 52.6%、40代は賛成 38.0%、50代は賛成 48.9%、60代は賛成 60.3%と、ゆるやかに増えていった。結婚している人の中では、賛成と反対がちょうど半々となっていた。結婚していない人の中では、賛成が 44.3%いた。

第3節 関連

家庭生活についての関連をまとめると、表になった。この表から仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (女性ほど、また年配の人ほど、専業主婦として、家事を負担しているだろう) おおむね肯定された。女性は、有意に家事を多く負担していた。年配の人は、有意ではなかったが、家事を多く負担する傾向があった。

仮説 2 (男性ほど、また年配の人ほど、夫婦の役割に賛成するだろう) おおむね肯定された。男性ほど、有意に賛成していた。年配の人ほど、有意ではないとはいえ、賛成する傾向があった。

仮説 3 (家事を負担している人ほど、夫婦の役割に反対するだろう) 否定された(関連が無かった)。負担している人もしていない人も、同じように反対(あるいは賛成)していた。

第4節 まとめ

この章では、人びとが家庭生活をどのように送っているのかを検討した。考察の結果、夫婦の役割が明確に存在していることがわかった。とくに、60代女性が家事をもっとも負担していた。夫が定年に達しているだろうが、若いときからの習慣で、夫婦の役割分担が継続しているのだろう。

現代は少子高齢化が急激に進み、女性の労働力も必要不可欠な時代になりつつある。そのためには、夫婦の間、家族の間、同僚の間などで、おたがいが協力しあえる体制を整える必要があるだろう。各個人や各家庭に合わせて、多様なライフスタイルを送れることが、暮らしやすい豊かな社会を作り出していくことにつながるだろう。



第14章 格差問題

—階層帰属意識との関連から—

和久井瞳（班長），佐久間恵梨，田中千尋，甘楽由紀，武藤優佳

主な集計結果

- ・「政府は，裕福な家庭と貧しい家庭の差を縮めるべきだ」という意見に，8割の人が賛成していた。
- ・日本社会のなかで，自分が「上」と考える人は4.2%，「下」も4.2%いた。残りの9割の人は，中と考えていた。

第1節 問題関心

この章では，人びとの間に格差がどのようにあるのかを調べる。近年は格差社会が到来したとも指摘されているが，この問題を調べることで格差を縮めるための提案ができるかもしれない。

厚生労働省「国民生活基礎調査」（2007年）によると，生活が「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計が世帯の56.3%と，半数を超えている。ここ数年は，横ばいが続いている。そこで，以下の仮説を立てた。

- 仮説1** 市内に長く住んでいる人ほど，階層帰属意識が高いだろう。
- 仮説2** 若い人ほど，格差社会の影響を受けやすいので，格差是正に賛成するだろう。
- 仮説3** 階層帰属意識が低い人ほど，格差是正に賛成するだろう。

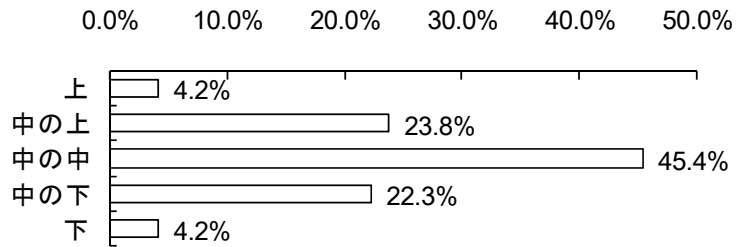
第2節 集計結果

(1) 格差是正への意見（問19イ）

格差是正の必要性について，問19で「以下の意見に，あなたは賛成ですか，反対ですか」として，「政府は，裕福な家庭と貧しい家庭の差を縮めるべきだ」という意見について質問した。選択肢は「とても賛成」「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」「とても反対」の6つであった。「とても賛成」と「賛成」と「やや賛成」をまとめて「賛成」とした。

結果は，全体でみると，84.1%の人が賛成した。男女でくらべると，男性で賛成80.9%，女性で86.5%と，女性の方が高かった。年齢別では，とくに傾向はなかった。市内在住年数でくらべると，9年以下の人で賛成82.6%，10年以上で84.9%となった。

問 21 かりに現在の日本社会を 5 つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入りますか。(○は 1 つ)



階層帰属意識

(2) 階層帰属意識 (問 21)

階層帰属意識について問 21 で、「かりに現在の日本社会を 5 つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入りますか」と質問した。選択肢は「上」「中の上」「中の中」「中の下」「下」の 5 つであった。上を 5、中の上を 4、中の中を 3、中の下を 2、下を 1 として、平均を比較する。階層帰属意識とは、その人が自分でどのような階層にいると考えているのかを表す。

全体では、上と答えた人が 4.2%、中の上が 23.8%、中の中が 45.4%、中の下が 22.3%、下が 4.2% となり、中の中と答えた人が半数近くいた。平均は 3.02 だった。全国とくらべると、上と中の上が多くなっている。

男女でくらべると、ほとんど違いはなかった。年齢別でくらべると、20 代の平均 2.6 から、年齢とともに上昇して、60 代だと平均 3.2 となる。結婚している人としていない人をくらべると、結婚している人 3.2、結婚していない人 2.7 であり、結婚している人の方が高い階層に属していると感じている。市内在住年数をくらべると、9 年以下の人と 10 年以上の人の間で、おおきな違いはなかった。

第 3 節 関連

関連をまとめると、表となった。変数が少なかったため、年齢と市内在住年数との関連も、表に入れた。この表から、仮説は以下のように検証された。

仮説 1 (市内に長く住んでいる人ほど、階層帰属意識が高いだろう) 否定された (関連がなかった)。在住年数が長い人も短い人も、おおむね階層帰属意識が高いようである。

仮説 2 (若い人ほど、格差社会の影響を受けやすいので、格差は正に賛成するだろう) 否定された (関連がなかった)。現在の格差社会にたいしては、年齢を問わず、是正が必要だと認識されているようだ。

仮説 3 (階層帰属意識が低い人ほど、格差は正に賛成するだろう) 肯定された。

相関係数 (*は有意確率 5%未満, **は 1%未満)

	是正に賛成	階層帰属意識	年齢	10 年以上
格差是正に賛成				
階層帰属意識	- 0.16**			
年齢	0.01	0.23**		
市内に 10 年以上	0.03	0.02	0.46**	

第 4 節 まとめ

この章では、どうすれば人びとの生活の格差を縮めることができるかという問題を検討した。考察の結果、8 割以上の人々が、格差是正が必要と考えていた。また、そう考えるのは、若い人も年配の人も同じくらいであり、階層帰属意識は低い人であった。

したがって、人びとは自分たちの生活をしっかり守ることができ、安心できることを望んでいるといえそうである。今回の調査結果から、これ以上格差が拡大しないよう、早期の対策が不可欠であろうと強く感じた。すくなくとも、教育や就職の機会が、人びとの間で平等になっていることが不可欠だろう。格差問題は、日本の未来をも揺るがしかねない。我われだけでなく、次世代に生きる人びとを思い、行動することが必要だろう。

第 III 部 資料

- A 基礎集計表
- B 自由回答
- C 調査票と督促状

A 基礎集計表

問1 あなたにとって、吉祥寺の街らしいと思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)

	人数	%	有効%
1 ジャズ喫茶	33	12.4	12.5
2 吉祥寺アニメフェス	4	1.5	1.5
3 吉祥寺音楽祭	14	5.3	5.3
4 デパート	66	24.8	25.1
5 サンロード	156	58.6	59.3
6 ロンロン (駅ビル)	108	40.6	41.1
7 ハモニカ横丁	154	57.9	58.6
8 いせや (焼き鳥屋)	80	30.1	30.4
9 井の頭公園	242	91.0	92.0
10 成蹊大学	54	20.3	20.5
11 その他	15	5.6	5.7
99 特にない	0	0.0	0.0
有効回答計	263	98.9	100.0
999 無回答	3	1.1	
合計	266	100.0	

その他：「動物園」「玉川上水」「若者達」「駅、乗り換え、金融機関」「井の頭線」「ムーバス」「文化会館」「住居地域における広さ制限」「新しい場所、旧い所が共存しているのがいい」「四軒寺」「スポーツ」「路上ライブ」「小さいお店」「飲食店が豊富」「サトウ肉店 (メンチカツ)」「café、雑貨屋、花屋さんの多さ、ビルが低くて空がみえる」「東急裏」「大正通り・中道通り」「セレブママをジョージーズというらしい」

問2 あなたにとって、吉祥寺の街に当てはまると思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)

	人数	%	有効%
1 交通の便がよい	176	66.2	66.9
2 好きな店がある	66	24.8	25.1
3 いろいろな店がある	183	68.8	69.6
4 おしゃれな雰囲気	100	37.6	38.0

5 活気がある	135	50.8	51.3
6 歩きやすい	56	21.1	21.3
7 座れる場所が多い	21	7.9	8.0
8 その他	15	5.6	5.7
8_1 その他（自然が多い）	7	2.6	2.7
99 特にない	6	2.3	2.3
有効回答計	263	98.9	100.0
999 無回答	3	1.1	
合計	266	100.0	

その他：「治安が良い，安全」「明るくてのんびりしている」「まじめな街，店の閉店時間が早い」
「小さな区域に店が集中しているのでショッピングしやすい」「ランチする店が多い」「消費（食料品）に上から下まで」「街が大きい」「繁華な割に住宅地があり，生活感がある」「老若男女問わず楽しめる」「井の頭公園にアートマーケットが出来た」「多様な機関があり便利」「若者のまち」
「子供（幼児）を連れて行きやすい」「自然と街がうまく共存している→井の頭公園など」

問3 あなたはこの1年間に，市内のイベントに行きましたか。（〇はいくつでも）

	人数	%	有効%
1 吉祥寺アニメフェスティバル（3月）	1	0.4	0.4
2 武蔵野桜まつり（4月）	57	21.4	21.8
3 成蹊桜祭（4月）	13	4.9	5.0
4 吉祥寺音楽祭（5月）	16	6.0	6.1
5 市民体育祭・水泳大会（9月）	13	4.9	5.0
6 むさしの青空市（10月）	21	7.9	8.0
7 成蹊大学 櫛（けやき）祭（11月）	11	4.1	4.2
8 市民文化祭（11月）	19	7.1	7.3
9 その他	8	3.0	3.1
99 どれにも行っていない	162	60.9	61.8
有効回答計	262	98.5	100.0
999 無回答	4	1.5	
合計	266	100.0	

その他：「市民大運動会（10月）・南町カーニバル（7月）」「ロンロンコンサート（子供の日）」「吉祥寺南町祭り」「三鷹の阿波踊り」「境まつり」「かっぱの家（保育所）バザー」「秋露庵（お茶会）」「市内小中学生の展覧会」

問4 あなたには、以下のことがどれくらい当てはまりますか。(○はそれぞれ1つ)

(ア) 吉祥寺が好きだ

	人数	%	有効%	累積%
1 いいえ	2	0.8	0.8	0.8
2	1	0.4	0.4	1.1
3	6	2.3	2.3	3.4
4	50	18.8	19.2	22.6
5	91	34.2	34.9	57.5
6 はい	111	41.7	42.5	100.0
有効回答計	261	98.1	100.0	
999 無回答	5	1.9		
合計	266	100.0		

(イ) 武蔵野市が好きだ

	人数	%	有効%	累積%
1 いいえ	2	0.8	0.8	0.8
2	3	1.1	1.1	1.9
3	17	6.4	6.5	8.4
4	50	18.8	19.0	27.4
5	89	33.5	33.8	61.2
6 はい	102	38.3	38.8	100.0
有効回答計	263	98.9	100.0	
999 無回答	3	1.1		
合計	266	100.0		

(ウ) 武蔵野市に住み続けたい

	人数	%	有効%	累積%
1 いいえ	3	1.1	1.1	1.1
2	2	0.8	0.8	1.9
3	22	8.3	8.3	10.2
4	47	17.7	17.8	28.0
5	67	25.2	25.4	53.4
6 はい	123	46.2	46.6	100.0
有効回答計	264	99.2	100.0	
999 無回答	2	0.8		

問5 武蔵野市に重点的に進めてほしいことを3つ選ぶとすれば、何ですか。(○は3つまで)

	人数	%	有効%
1 高齢者福祉	77	28.9	29.3
2 障害者福祉	20	7.5	7.6
3 健康増進施策	17	6.4	6.5
4 子ども施策・青少年施策	41	15.4	15.6
5 小・中学校教育	34	12.8	12.9
6 生涯学習	16	6.0	6.1
7 環境負荷が少ない街作り	40	15.0	15.2
8 ごみ減量	15	5.6	5.7
9 緑化・水辺空間の整備	63	23.7	24.0
10 産業の振興	10	3.8	3.8
11 安全な市民生活	109	41.0	41.4
12 災害に強いまちづくり	64	24.1	24.3
13 市民活動・市民文化	11	4.1	4.2
14 都市交流・国際交流	8	3.0	3.0
15 参加と連携による街作り	11	4.1	4.2
16 住宅政策	16	6.0	6.1
17 交通システムや道路環境	48	18.0	18.3
18 自転車対策	86	32.3	32.7
19 駅周辺の整備	41	15.4	15.6
20 行財政改革	21	7.9	8.0
21 情報化の推進	6	2.3	2.3
有効回答計	263	98.9	100.0
999 無回答	3	1.1	
合計	266	100.0	

問6 あなたは現在、(市内外で) 何かの会や組織に入っていますか。(○はいくつでも)

	人数	%	有効%
1 趣味(コーラス, 写真など)	41	15.4	15.6
2 運動(クラブやジムも)	49	18.4	18.6
3 P T A	17	6.4	6.5
4 生協	49	18.4	18.6
5 コミュニティセンター利用	28	10.5	10.6

6 ボランティア団体	12	4.5	4.6
7 ボランティア以外の市民団体・NPO	12	4.5	4.6
8 その他	10	3.8	3.8
99 入っていない	133	50.0	50.6
有効回答計	263	98.9	100.0
999 無回答	3	1.1	
合計	266	100.0	

その他：「子供会」「子供達を守る見守隊」「子供を守る家，SOS110 番のシールを門に貼って協力」「自然・育児・友の会」「植物の研究団体」「芸文協」「アルテの会」「教会（キリスト教）」「花時計」

問7 あなたはこれまで、ボランティア活動を市内や市外で行なったことがありますか。なかった場合、ボランティア活動を希望していましたか。（○はそれぞれ1つ）

(ア) 市内でボランティア活動

	人数	%	有効%	累積%
0 しなかった（希望してなかった）	179	67.3	69.1	69.1
1 しなかった（希望していた）	21	7.9	8.1	77.2
2 した	59	22.2	22.8	100.0
有効回答計	259	97.4	100.0	
999 無回答	7	2.6		
合計	266	100.0		

(イ) 市外でボランティア活動

	人数	%	有効%	累積%
0 しなかった（希望してなかった）	182	68.4	72.2	72.2
1 しなかった（希望していた）	16	6.0	6.3	78.6
2 した	54	20.3	21.4	100.0
有効回答計	252	94.7	100.0	
999 無回答	14	5.3		
合計	266	100.0		

問8 あなたには、悩みを相談しあう方が、市内と市外に何人くらいいますか（家族除く）。

市内

	人数	%	有効%	累積%
0人	84	31.6	34.4	34.4
1	43	16.2	17.6	52.0
2	37	13.9	15.2	67.2
3	34	12.8	13.9	81.1
4	5	1.9	2.0	83.2
5	28	10.5	11.5	94.7
7	1	0.4	0.4	95.1
10	10	3.8	4.1	99.2
100	2	0.8	0.8	100.0
有効回答計	244	91.7	100.0	
999 無回答	22	8.3		
合計	266	100.0		

市外

	人数	%	有効%	累積%
0人	20	7.5	8.0	8.0
1	28	10.5	11.2	19.2
2	32	12.0	12.8	32.0
3	48	18.0	19.2	51.2
4	11	4.1	4.4	55.6
5	60	22.6	24.0	79.6
6	5	1.9	2.0	81.6
7	4	1.5	1.6	83.2
10	26	9.8	10.4	93.6
11	1	0.4	0.4	94.0
15	3	1.1	1.2	95.2
17	1	0.4	0.4	95.6
20	3	1.1	1.2	96.8
23	1	0.4	0.4	97.2
30	5	1.9	2.0	99.2
100	1	0.4	0.4	99.6
400	1	0.4	0.4	100.0
有効回答計	250	94.0	100.0	

999 無回答	16	6.0
合計	266	100.0

問9 あなたにはこの1年間に、以下のことがありましたか。(○はそれぞれ1つ)

(ア) 井の頭公園に行った・通った

	人数	%	有効%	累積%
0 ない	35	13.2	13.4	13.4
1 ある	226	85.0	86.6	100.0
有効回答計	261	98.1	100.0	
999 無回答	5	1.9		
合計	266	100.0		

(イ) お中元・お歳暮を贈った(家族の方も含めて)

	人数	%	有効%	累積%
0 ない	84	31.6	32.3	32.3
1 ある	176	66.2	67.7	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

(ウ) お中元・お歳暮をもらった(家族の方も含めて)

	人数	%	有効%	累積%
0 ない	87	32.7	33.5	33.5
1 ある	173	65.0	66.5	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

問10 あなたは現在、以下のものを利用していますか。(○はいくつでも)

	人数	%	有効%
1 携帯電話・PHSでメール	216	81.2	82.4
2 携帯電話・PHSでインターネット	89	33.5	34.0
3 パソコンでメール	157	59.0	59.9

4 パソコンでインターネット	192	72.2	73.3
5 パソコンで文書作成	147	55.3	56.1
99 利用していない	25	9.4	9.5
有効回答計	262	98.5	100.0
999 無回答	4	1.5	
合計	266	100.0	

問 1 1 あなたは現在、健康のために何かしていますか。(○はいくつでも)

	人数	%	有効%
1 散歩(犬の散歩含む)	100	37.6	37.9
2 ストレッチ(ヨガ, 体操含む)	79	29.7	29.9
3 腹筋や背筋	40	15.0	15.2
4 ジョギング	13	4.9	4.9
5 水泳	17	6.4	6.4
6 テニス	16	6.0	6.1
7 ゴルフ	31	11.7	11.7
8 その他	22	8.3	8.3
8_1 その他(ダンス, 社交ダンス, フォークダンス, バレエ)	6	2.3	2.3
8_2 その他(野球, サッカー, フットサル)	6	2.3	2.3
8_3 その他(スポーツジム)	4	1.5	1.5
99 していない	75	28.2	28.4
有効回答計	264	99.2	100.0
999 無回答	2	0.8	
合計	266	100.0	

その他:「サイクリング」「ソフトボール」「バレーボール」「バドミントン」「スキューバダイビング」「卓球」「弓道」「剣術」「空手」「乗馬」「気功」「登山」「ブートキャンプ」「発声」「バランスの良い食事と規則的な生活スケジュール」「マクロビオティック」「ヘルストロン」「農作業」

問 1 2 あなたは、以下のことを一週間にどれくらいしますか。(○はそれぞれ1つ)
(ア) 吉祥寺駅周辺に行く・通る

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	35	13.2	13.7	13.7
1 1日	63	23.7	24.6	38.3
2 2日	25	9.4	9.8	48.0
3 3日	19	7.1	7.4	55.5

4 4日	15	5.6	5.9	61.3
5 5日	24	9.0	9.4	70.7
6 6日	26	9.8	10.2	80.9
7 毎日	49	18.4	19.1	100.0
有効回答計	256	96.2	100.0	
999 無回答	10	3.8		
合計	266	100.0		

(イ) 運動をする

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	87	32.7	34.0	34.0
1 1日	44	16.5	17.2	51.2
2 2日	35	13.2	13.7	64.8
3 3日	39	14.7	15.2	80.1
4 4日	11	4.1	4.3	84.4
5 5日	9	3.4	3.5	87.9
6 6日	10	3.8	3.9	91.8
7 毎日	21	7.9	8.2	100.0
有効回答計	256	96.2	100.0	
999 無回答	10	3.8		
合計	266	100.0		

(ウ) 携帯電話・PHSを使う

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	27	10.2	10.3	10.3
1 1日	12	4.5	4.6	14.9
2 2日	4	1.5	1.5	16.5
3 3日	6	2.3	2.3	18.8
4 4日	10	3.8	3.8	22.6
5 5日	10	3.8	3.8	26.4
6 6日	8	3.0	3.1	29.5
7 毎日	184	69.2	70.5	100.0
有効回答計	261	98.1	100.0	
999 無回答	5	1.9		
合計	266	100.0		

(エ) パソコンを使う

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	45	16.9	17.6	17.6
1 1日	22	8.3	8.6	26.2
2 2日	14	5.3	5.5	31.6
3 3日	20	7.5	7.8	39.5
4 4日	13	4.9	5.1	44.5
5 5日	21	7.9	8.2	52.7
6 6日	6	2.3	2.3	55.1
7 毎日	115	43.2	44.9	100.0
有効回答計	256	96.2	100.0	
999 無回答	10	3.8		
合計	266	100.0		

(オ) コンビニに行く

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	45	16.9	17.5	17.5
1 1日	62	23.3	24.1	41.6
2 2日	32	12.0	12.5	54.1
3 3日	36	13.5	14.0	68.1
4 4日	19	7.1	7.4	75.5
5 5日	16	6.0	6.2	81.7
6 6日	13	4.9	5.1	86.8
7 毎日	34	12.8	13.2	100.0
有効回答計	257	96.6	100.0	
999 無回答	9	3.4		
合計	266	100.0		

(カ) パチンコに行く

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	240	90.2	94.9	94.9
1 1日	5	1.9	2.0	96.8
2 2日	4	1.5	1.6	98.4
3 3日	4	1.5	1.6	100.0
有効回答計	253	95.1	100.0	

999 無回答	13	4.9		
合計	266	100.0		

(キ) コーヒーを飲む

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	41	15.4	15.6	15.6
1 1日	14	5.3	5.3	20.9
2 2日	33	12.4	12.5	33.5
3 3日	14	5.3	5.3	38.8
4 4日	16	6.0	6.1	44.9
5 5日	24	9.0	9.1	54.0
6 6日	12	4.5	4.6	58.6
7 毎日	109	41.0	41.4	100.0
有効回答計	263	98.9	100.0	
999 無回答	3	1.1		
合計	266	100.0		

(ク) お酒を飲む

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	97	36.5	37.9	37.9
1 1日	31	11.7	12.1	50.0
2 2日	18	6.8	7.0	57.0
3 3日	19	7.1	7.4	64.5
4 4日	20	7.5	7.8	72.3
5 5日	14	5.3	5.5	77.7
6 6日	16	6.0	6.3	84.0
7 毎日	41	15.4	16.0	100.0
有効回答計	256	96.2	100.0	
999 無回答	10	3.8		
合計	266	100.0		

(ケ) タバコを吸う

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	199	74.8	77.1	77.1
1 1日	1	0.4	0.4	77.5

2 2日	1	0.4	0.4	77.9
3 3日	1	0.4	0.4	78.3
4 4日	1	0.4	0.4	78.7
5 5日	1	0.4	0.4	79.1
6 6日	1	0.4	0.4	79.5
7 毎日	53	19.9	20.5	100.0
有効回答計	258	97.0	100.0	
999 無回答	8	3.0		
合計	266	100.0		

問13 あなたは現在、以下のことに満足していますか。(○はそれぞれ1つ)

(ア) 生活全体

	人数	%	有効%	累積%
1 とても不満	1	0.4	0.4	0.4
2 不満	4	1.5	1.5	1.9
3 どちらかといえば不満	30	11.3	11.5	13.4
4 どちらかといえば満足	124	46.6	47.5	60.9
5 満足	80	30.1	30.7	91.6
6 とても満足	22	8.3	8.4	100.0
有効回答計	261	98.1	100.0	
999 無回答	5	1.9		
合計	266	100.0		

(イ) 市の住みやすさ

	人数	%	有効%	累積%
1 とても不満	2	0.8	0.8	0.8
2 不満	1	0.4	0.4	1.1
3 どちらかといえば不満	14	5.3	5.3	6.5
4 どちらかといえば満足	120	45.1	45.8	52.3
5 満足	100	37.6	38.2	90.5
6 とても満足	25	9.4	9.5	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

(ウ) 家庭生活

	人数	%	有効%	累積%
1 とても不満	1	0.4	0.4	0.4
2 不満	8	3.0	3.1	3.4
3 どちらかといえば不満	29	10.9	11.1	14.5
4 どちらかといえば満足	97	36.5	37.0	51.5
5 満足	88	33.1	33.6	85.1
6 とても満足	39	14.7	14.9	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

(エ) 健康状態

	人数	%	有効%	累積%
1 とても不満	5	1.9	1.9	1.9
2 不満	9	3.4	3.4	5.3
3 どちらかといえば不満	34	12.8	13.0	18.3
4 どちらかといえば満足	104	39.1	39.7	58.0
5 満足	91	34.2	34.7	92.7
6 とても満足	19	7.1	7.3	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

(オ) 友人関係

	人数	%	有効%	累積%
1 とても不満	2	0.8	0.8	0.8
2 不満	1	0.4	0.4	1.1
3 どちらかといえば不満	21	7.9	8.0	9.2
4 どちらかといえば満足	101	38.0	38.5	47.7
5 満足	101	38.0	38.5	86.3
6 とても満足	36	13.5	13.7	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

(カ) 仕事（パートも）

	人数	%	有効%	累積%
1 とても不満	3	1.1	1.1	1.1
2 不満	7	2.6	2.7	3.8
3 どちらかといえば不満	24	9.0	9.2	13.0
4 どちらかといえば満足	94	35.3	35.9	48.9
5 満足	57	21.4	21.8	70.6
6 とても満足	18	6.8	6.9	77.5
99 働いていない	59	22.2	22.5	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

問14 あなたには、この1週間に以下のことがありましたか。（○はそれぞれ1つ）

(ア) ストレスを感じたことがある

	人数	%	有効%	累積%
0 ない	52	19.5	19.8	19.8
1 ある	210	78.9	80.2	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

(イ) 憂うつだと感じたことがある

	人数	%	有効%	累積%
0 ない	121	45.5	46.5	46.5
1 ある	139	52.3	53.5	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

(ウ) ふと泣きたくなることがある

	人数	%	有効%	累積%
0 ない	198	74.4	76.2	76.2
1 ある	62	23.3	23.8	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

問 1 5 あなたはこれまで、海外旅行に何回くらい行ったことがありますか(出張も含めて)。

	人数	%	有効%	累積%
0 回	34	12.8	13.0	13.0
1	33	12.4	12.6	25.7
2	24	9.0	9.2	34.9
3	25	9.4	9.6	44.4
4	23	8.6	8.8	53.3
5	17	6.4	6.5	59.8
6	12	4.5	4.6	64.4
7	6	2.3	2.3	66.7
8	6	2.3	2.3	69.0
9	3	1.1	1.1	70.1
10	23	8.6	8.8	78.9
11	2	0.8	0.8	79.7
12	4	1.5	1.5	81.2
15	7	2.6	2.7	83.9
17	2	0.8	0.8	84.7
18	1	0.4	0.4	85.1
20	19	7.1	7.3	92.3
21	1	0.4	0.4	92.7
25	2	0.8	0.8	93.5
27	1	0.4	0.4	93.9
30	4	1.5	1.5	95.4
40	3	1.1	1.1	96.6
50	4	1.5	1.5	98.1
70	2	0.8	0.8	98.9
80	2	0.8	0.8	99.6
100	1	0.4	0.4	100.0
有効回答計	261	98.1	100.0	
999 無回答	5	1.9		
合計	266	100.0		

問16 あなたはこれまで、東京ディズニーランドに何回くらい行ったことがありますか。

	人数	%	有効%	累積%
0 回	21	7.9	8.0	8.0
1	31	11.7	11.8	19.8
2	34	12.8	13.0	32.8
3	36	13.5	13.7	46.6
4	14	5.3	5.3	51.9
5	43	16.2	16.4	68.3
6	5	1.9	1.9	70.2
7	6	2.3	2.3	72.5
8	4	1.5	1.5	74.0
10	35	13.2	13.4	87.4
12	1	0.4	0.4	87.8
13	1	0.4	0.4	88.2
15	5	1.9	1.9	90.1
17	1	0.4	0.4	90.5
20	18	6.8	6.9	97.3
30	4	1.5	1.5	98.9
40	1	0.4	0.4	99.2
100	1	0.4	0.4	99.6
200	1	0.4	0.4	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

問17 あなたは以下のことを、一週間にご家族とどれくらいしますか。同居していないご家族も含めてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

(ア) 夕食を一緒に食べる

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	40	15.0	15.3	15.3
1 1日	14	5.3	5.4	20.7
2 2日	23	8.6	8.8	29.5
3 3日	30	11.3	11.5	41.0
4 4日	24	9.0	9.2	50.2
5 5日	20	7.5	7.7	57.9
6 6日	15	5.6	5.7	63.6
7 毎日	95	35.7	36.4	100.0
有効回答計	261	98.1	100.0	
999 無回答	5	1.9		
合計	266	100.0		

(イ) テレビを一緒に見る

	人数	%	有効%	累積%
0 しない	50	18.8	19.2	19.2
1 1日	9	3.4	3.5	22.7
2 2日	21	7.9	8.1	30.8
3 3日	24	9.0	9.2	40.0
4 4日	20	7.5	7.7	47.7
5 5日	24	9.0	9.2	56.9
6 6日	13	4.9	5.0	61.9
7 毎日	99	37.2	38.1	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

問18 ご家庭の家事のうち、あなたはどれくらい行なっていますか。(○は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
0 ほとんどしない	29	10.9	11.1	11.1
1 1割	22	8.3	8.4	19.5
2 2割	15	5.6	5.7	25.3
3 3割	26	9.8	10.0	35.2
4 4割	8	3.0	3.1	38.3
5 5割	20	7.5	7.7	46.0
6 6割	8	3.0	3.1	49.0
7 7割	17	6.4	6.5	55.6
8 8割	13	4.9	5.0	60.5
9 9割	19	7.1	7.3	67.8
10 ほとんど全部	84	31.6	32.2	100.0
有効回答計	261	98.1	100.0	
999 無回答	5	1.9		
合計	266	100.0		

問19 以下の意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(○はそれぞれ1つ)

(ア) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

	人数	%	有効%	累積%
1 とても反対	24	9.0	9.3	9.3
2 反対	50	18.8	19.3	28.6
3 どちらかといえば反対	60	22.6	23.2	51.7
4 どちらかといえば賛成	86	32.3	33.2	84.9
5 賛成	32	12.0	12.4	97.3
6 とても賛成	7	2.6	2.7	100.0
有効回答計	259	97.4	100.0	
999 無回答	7	2.6		
合計	266	100.0		

(イ) 政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の差を縮めるべきだ

	人数	%	有効%	累積%
1 とても反対	3	1.1	1.2	1.2
2 反対	14	5.3	5.4	6.6
3 どちらかといえば反対	24	9.0	9.3	15.8
4 どちらかといえば賛成	87	32.7	33.6	49.4
5 賛成	88	33.1	34.0	83.4
6 とても賛成	43	16.2	16.6	100.0
有効回答計	259	97.4	100.0	
999 無回答	7	2.6		
合計	266	100.0		

問20 ご家庭の毎月のやりくりは、どのような状況ですか。(○は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
1 苦勞している	22	8.3	8.5	8.5
2 どちらかといえば苦勞している	58	21.8	22.3	30.8
3 どちらかといえば苦勞していない	110	41.4	42.3	73.1
4 苦勞していない	70	26.3	26.9	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

問2 1 かりに現在の日本社会を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入ると思
いますか。(○は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
1 下	11	4.1	4.2	4.2
2 中の下	58	21.8	22.3	26.5
3 中の中	118	44.4	45.4	71.9
4 中の上	62	23.3	23.8	95.8
5 上	11	4.1	4.2	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

問2 2 あなたの年齢と性別を、お聞かせください。
(年齢)

	人数	%	有効%	累積%
22 歳	3	1.1	1.1	1.1
23	8	3.0	3.1	4.2
24	5	1.9	1.9	6.1
25	4	1.5	1.5	7.6
26	3	1.1	1.1	8.8
27	3	1.1	1.1	9.9
28	5	1.9	1.9	11.8
29	10	3.8	3.8	15.6
30	2	0.8	0.8	16.4
31	3	1.1	1.1	17.6
32	4	1.5	1.5	19.1
33	8	3.0	3.1	22.1
34	8	3.0	3.1	25.2
35	4	1.5	1.5	26.7
36	5	1.9	1.9	28.6
37	12	4.5	4.6	33.2
38	5	1.9	1.9	35.1
39	6	2.3	2.3	37.4
40	10	3.8	3.8	41.2
41	6	2.3	2.3	43.5
42	4	1.5	1.5	45.0
43	10	3.8	3.8	48.9
44	5	1.9	1.9	50.8
45	5	1.9	1.9	52.7
46	4	1.5	1.5	54.2
47	2	0.8	0.8	55.0
48	6	2.3	2.3	57.3
49	4	1.5	1.5	58.8

50	5	1.9	1.9	60.7
51	3	1.1	1.1	61.8
52	5	1.9	1.9	63.7
53	6	2.3	2.3	66.0
54	4	1.5	1.5	67.6
55	6	2.3	2.3	69.8
56	4	1.5	1.5	71.4
57	3	1.1	1.1	72.5
58	8	3.0	3.1	75.6
59	4	1.5	1.5	77.1
60	8	3.0	3.1	80.2
61	6	2.3	2.3	82.4
62	4	1.5	1.5	84.0
63	8	3.0	3.1	87.0
64	4	1.5	1.5	88.5
65	9	3.4	3.4	92.0
66	8	3.0	3.1	95.0
67	4	1.5	1.5	96.6
68	4	1.5	1.5	98.1
69	5	1.9	1.9	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

	人数	%	有効%	累積%
20代	41	15.4	15.6	15.6
30代	57	21.4	21.8	37.4
40代	56	21.1	21.4	58.8
50代	48	18.0	18.3	77.1
60代	60	22.6	22.9	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

(性別)

	人数	%	有効%	累積%
0 女性	151	56.8	57.6	57.6
1 男性	111	41.7	42.4	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

問23 あなたは、武蔵野市に通算してどれくらい住んでいますか。

	人数	%	有効%	累積%
1年	17	6.4	6.5	6.5
2	13	4.9	5.0	11.5
3	5	1.9	1.9	13.4
4	11	4.1	4.2	17.6
5	12	4.5	4.6	22.1
6	12	4.5	4.6	26.7
7	10	3.8	3.8	30.5
8	12	4.5	4.6	35.1
9	2	0.8	0.8	35.9
10	14	5.3	5.3	41.2

11	2	0.8	0.8	42.0
12	4	1.5	1.5	43.5
13	1	0.4	0.4	43.9
14	4	1.5	1.5	45.4
15	12	4.5	4.6	50.0
16	4	1.5	1.5	51.5
17	1	0.4	0.4	51.9
18	1	0.4	0.4	52.3
19	1	0.4	0.4	52.7
20	11	4.1	4.2	56.9

22	4	1.5	1.5	58.4
23	9	3.4	3.4	61.8
24	6	2.3	2.3	64.1
25	4	1.5	1.5	65.6
26	2	0.8	0.8	66.4
27	2	0.8	0.8	67.2
28	5	1.9	1.9	69.1
30	9	3.4	3.4	72.5

31	1	0.4	0.4	72.9
32	5	1.9	1.9	74.8
33	5	1.9	1.9	76.7
34	2	0.8	0.8	77.5
35	7	2.6	2.7	80.2
36	3	1.1	1.1	81.3
37	5	1.9	1.9	83.2
38	3	1.1	1.1	84.4
39	3	1.1	1.1	85.5
40	11	4.1	4.2	89.7

41	1	0.4	0.4	90.1
42	2	0.8	0.8	90.8
43	4	1.5	1.5	92.4
44	2	0.8	0.8	93.1
45	1	0.4	0.4	93.5
46	1	0.4	0.4	93.9
47	2	0.8	0.8	94.7
50	2	0.8	0.8	95.4

52	1	0.4	0.4	95.8

53	1	0.4	0.4	96.2
54	1	0.4	0.4	96.6
55	3	1.1	1.1	97.7
56	1	0.4	0.4	98.1
59	1	0.4	0.4	98.5
60	2	0.8	0.8	99.2
<hr/>				
63	1	0.4	0.4	99.6
65	1	0.4	0.4	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

	人数	%	有効%	累積%
9年以内	94	35.3	35.9	35.9
10年以上	168	63.2	64.1	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

問2.4 あなたは、これまで武蔵野市とどのように関わってきましたか。(〇はいくつでも)

	人数	%	有効%
1 市内で生まれた	41	15.4	15.6
2 市内の小学校に通った	54	20.3	20.6
3 市内の中学校に通った	47	17.7	17.9
4 市内の高校に通った	6	2.3	2.3
5 市内の大学に通った	6	2.3	2.3
6 現在、市内に職場がある	47	17.7	17.9
7 過去に、市内の職場に勤めたことがある	32	12.0	12.2
8 現在、市内に夫または妻の職場がある	27	10.2	10.3
9 その他	18	6.8	6.9
9_1 その他(結婚して転入した)	7	2.6	2.7
99 どれも当てはまらない	107	40.2	40.8
有効回答計	262	98.5	100.0
999 無回答	4	1.5	
合計	266	100.0	

その他：「父母の実家」「近くの市の大学へ通っていた」「学校卒業後、引っ越してきた」「区内の学校・区内の職場」「子供が市内の学校に通学」「子供、大人に絵の教室をひらいている」「仕事で転勤」「住居、社宅がある」「最寄り駅が吉祥寺」「友人が住んでいた」「過去に住んでいた」「専門委員」

問25 あなたは現在、結婚していますか。(〇は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
0 結婚していない	81	30.5	30.9	30.9
1 結婚している	172	64.7	65.6	96.6
99 死別	9	3.4	3.4	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

問26 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか。(義理も含めてあてはまる方すべて)

	人数	%	有効%
1 夫または妻	164	61.7	62.8
2 子供	106	39.8	40.6
3 父母	60	22.6	23.0
4 兄弟姉妹	25	9.4	9.6
5 祖父母	5	1.9	1.9
6 孫	2	0.8	0.8
7 一人暮らし	43	16.2	16.5
8 その他	1	0.4	0.4
有効回答計	261	98.1	100.0
999 無回答	5	1.9	
合計	266	100.0	

問27 あなたのお住まいは、持ち家ですか。(〇は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
1 賃貸、社宅	96	36.1	36.9	36.9
2 持ち家(マンション)	30	11.3	11.5	48.5
3 持ち家(戸建て)	134	50.4	51.5	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

問28 あなたの現在の主なお仕事は、どれにあたりますか。(○は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
1 自営業主・自由業者・家族従業員	39	14.7	14.9	14.9
2 正社員・公務員	99	37.2	37.8	52.7
3 派遣社員・契約社員・嘱託社員	22	8.3	8.4	61.1
4 パート・アルバイト・内職・臨時雇用	38	14.3	14.5	75.6
5 主婦・主夫	49	18.4	18.7	94.3
6 学生	4	1.5	1.5	95.8
7 無職	11	4.1	4.2	100.0
有効回答計	262	98.5	100.0	
999 無回答	4	1.5		
合計	266	100.0		

問29 現在仕事をしている方は、どのような仕事をしていますか。どこに分類できるか分からない場合は、8に○をつけて、具体的な仕事内容を書いてください。(○は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
1 管理職	33	12.4	12.7	12.7
2 専門職	53	19.9	20.4	33.1
3 事務職	55	20.7	21.2	54.2
4 販売職	23	8.6	8.8	63.1
5 サービス職	19	7.1	7.3	70.4
6 現場職	12	4.5	4.6	75.0
7 農林水産業	3	1.1	1.2	76.2
8 その他	0	0.0	0.0	76.2
99 現在仕事をしていない	62	23.3	23.8	100.0
有効回答計	260	97.7	100.0	
999 無回答	6	2.3		
合計	266	100.0		

問30 最後に通った学校は、以下のどれにあたりますか(中退・通学中含む)。(○は1つ)

	人数	%	有効%	累積%
1 中学校	3	1.1	1.1	1.1
2 高校	47	17.7	17.9	19.0
3 短大・高専	37	13.9	14.1	33.1
4 専門学校	39	14.7	14.8	47.9

5 大学・大学院	137	51.5	52.1	100.0
有効回答計	263	98.9	100.0	
999 無回答	3	1.1		
合計	266	100.0		

自由回答 もしこの調査や成蹊大学についてご意見・ご感想がございましたら、ぜひお聞かせください。

	人数	%	有効%	累積%
記述あり	90	33.9	33.9	33.9
なし	176	66.1	66.1	100.0
有効回答計	266	100.0	100.0	
合計	266	100.0		

B 自由回答

自由回答の内容を、以下に掲載します。明らかな誤字以外は、原文のままとなっています。ただし、プライバシーに関わる部分は除いてあります。

1 武蔵野市について

- ・武蔵野・吉祥寺は幸福を感じさせてくれる街です。
- ・とても有意義な試みと思います。多少時間はかかってもより良い"大人の街"吉祥寺、福祉と文化の面で特に「ひと味違う武蔵野市」であって欲しいと思います。
- ・社会のインフラ整備を急ぐ事も必要ですが、本来の武蔵野市の最も優れた緑を失う政策への片寄りを感ずります。人がゆったり出来る本来の武蔵野市の政策への回帰を切に希望します。不便もまた人の幸せです。
- ・問5の自転車対策については、駅から徒歩で1~2分の駐輪場を増やしていただけると助かります。
- ・吉祥寺がどんどん変わってしまって、昔ながらの店などが消えてしまい、なんだか新宿のような雑多な街になってきてしまったのが嫌です。とくに南口バス通りの夜は汚らしい。あたたかみの街になってほしいと思います。

2 成蹊大学について

- ・成蹊高校出身です。成蹊も吉祥寺も大好きです。
- ・ドラマでも良く見るあの並木道、学生に戻れるのであれば、成蹊で学びたかったなー。
- ・以前、クッキングスクールに参加させて頂き、すばらしい学校だと思いました。櫛並木は大好きです。大切に保存して欲しいです。
- ・バス停が五日市街道から少し引っこんで安全面も通りやすさも美しくなり、良かったと思います。
- ・桜祭り楽しかったです。フォアセインツの歌も良かった。いつも開かれた大学であってほしいと思います。
- ・成蹊大学・高校のけやきを大切にしてください。
- ・櫛並木はいつまでも残してほしい！！
- ・緑の景色が似合う成蹊大学はとてもその周囲の建物とも調和していると思いますが、そこまでの道路の狭さや、(歩道・車道など)歩道橋などがいまいち景観を損なっているように感じます。杉並の東京女子大の門構えのように、横に広々とした広がりや風格を持っている大ききになればもっともっと素敵な雰囲気の大学になることでしょう。井の頭公園の次に好きな北町になってほしいです。また、公開講座も大いに期待しています。落ち着いたいい大学とし

て街に溶け込んでいってください。これからも！図書カードいただきました。ありがとうございました。

- ・図書館を地域住民に開放してほしい。
- ・図書資料をもっと手軽に閲覧・貸出できるといい。
- ・成蹊大学の図書館が充実していると聞きました。是非市民にも公開してほしいと思います。生涯学習充実のためにもよろしく願います。
- ・成蹊大学の新しい図書館を利用したく、市の図書館に問い合わせたら、あまり、大学側も利用をオープンにしたくないようだとの返答だった。(数ヶ月前のことだが)利用可能なら市報等でもっと宣伝してほしい。
- ・成蹊大学の桜祭り・けやき祭に行きたい気持ちがあるが、行きにくい。市内にある大学だから市の広報誌等で日程等宣伝したら？
- ・学園祭に行きたいのですが、日時が分からない。(東町)
- ・成蹊の近くに住んでいますが、麻疹の発生をTVニュースで知り、周辺住民への周知は必要なかったのかと疑問に持ちました。
- ・障害を持つ学生を受け入れてますか？受け入れてる場合障害の種類や頻度に制限がありますか？
- ・武蔵野市と協賛している生涯教育の件ですが、私が希望しているジャンルがあると嬉しいです。又、時間が取れなくて残念なときがあります。(動物学・美術関係等)

3 成蹊大学の学生について

- ・成蹊大学の近くに以前すんでいました。学生さんのマナーがとても良く、気持ちよく生活させて頂いておりました。
- ・大学生・小中学生はマナーをもう少し守る。老人に優しい子供(学生)作り。乗り物、交通マナー、礼儀作法を教えてください。
- ・朝の通勤時間の際、吉祥寺駅前のバスターミナルで学生のバス待ちの列が通行の妨げになっている。
- ・どこでも誰でも共通していますが、我が物顔の学生には腹が立ちます。もう少し節度を持ってほしいです。文化遺産的な欅並木をもっと大事にしてほしいです。とても素敵な学舎です。
- ・学生たちの並木通りの通学状況があまり芳しくありません。(自転車を通るほうは大変です)
- ・成蹊大学・高校に通学する学生のマナーの悪さに困っています。道路を歩く際、他の市民に迷惑をかけずに歩くことを少し皆で考える機会を作ってください。狭い道で横並び、3列、4列、5列で歩く姿を見ると、学生指導を学園としてもう少し取りくむべきと考えます。高齢者、障害者、ムーバス、自転車に乗る人、普通に生活する住民が常々困っています。このような意見は、おそらく最低レベルの事柄で、これを書くことに残念な気持ちを感じます。
- ・どこの大学でも同じと思うが吉祥寺駅への大学生の通学はエチケットを守っていない。まじめな学生も多いと思うがかっこう(服装)といいあるき方といいさびしい限りです。他の

人に迷惑をかけないように皆で生活していきたいものです。

- ・近年学生の質が悪い気がします。(公共マナーなど)
 - ・吉祥寺駅発着のバスで、優先席に平然と座っていたり、駅までの色々な通りで、道幅いっぱい広がって歩いていて他の人の通行を妨げているのに全く気付かなかったり、etc・・・。
- モラルの低さ、マナーの悪さが目に付きます。優秀な学校と聞いていましたので、残念に思っています。

4 この調査について

- ・成蹊大学の地域活動がんばってください。
- ・この調査が今後みんなの役に立つことを願います。
- ・これからも継続して行って下さい。頑張ってください！
- ・当地活性化のためにがんばってください。期待しています。
- ・ご苦労様。若いうちから世の中を知ることは良いことです。
- ・がんばってください！！
- ・図書券ありがとうございました。
- ・図書カードありがとうございました。
- ・図書カードありがとうございました。(^^)
- ・図書カードありがとうございました。
- ・図書カードありがとうございました。私の仕事は特殊なので、あまり参考にはならないかと思いますが、例外もありという形で理解して頂ければと思います。
- ・この調査の結果が楽しみです。大学が隣の市でしたが吉祥寺が好きで、就職した今でもずっと吉祥寺に住んでいます。成蹊大学さんの前もよく通ります。緑がキレイで好きです。調査頑張ってくださいね☆
- ・集計作業お疲れ様です。問5の選択肢に社会教育がありませんでしたが、社会教育の推進を希望します。今回は似たものとして6, 13, 15に丸をつけました。市民の学ぶ権利、人とつながる権利を保障する、人的力量が、行政には必要です。ありがとうございました。
- ・ボランティア活動に行っており、25日に帰宅しました。遅くなって申し訳ありませんでした。
- ・大学でのアンケートを勉強の1つとしてしまわず、武蔵野市がぜひ参考にし、少しでも住みやすい街づくりを考えてくれるよう働きかけてほしい。
- ・調査の結果がどのように役立てられるか知りたいです。市の広報などで誰でも知ることができるようにしてください。
- ・強制ではないと書いてあるが、返信用封筒に切手ははってあったり、図書カードが入っていたりすると、返答しないわけにはいかないので、別の方法を考えて頂きたいです。(お礼は必要ないと思います)
- ・「記名」での調査を是非実施すべき。「記名」にして、もっと具体的な意見・要望を収集す

る必要あり．この程度の調査では「やらないよりは良い」程度の効果しかないだろう．もっとつっこんだ調査をして下さい．

- ・成蹊に偏りすぎのデータの使用，利用に，武蔵野市の情報価値に疑問が残る．
- ・公開時期は市報でわかりますか．春でなく何月何日ごろと明記してくだされば書く側もその時しっかりと見たいものです．

C 調査票と督促状

第2回 地域と生活についての武蔵野市民調査

調査実施・お問い合わせ先：成蹊大学 社会調査士課程室
担当：文学部専任講師 小林 盾^{こばやし じゆん}、文学部助手 武藤 正義^{むとう まさよし}
0422-37-3972 月曜・木曜10～17時
〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

◆ この調査について

- ・この調査は、武蔵野市民のみなさんが、地域や生活についてどのようにお考えかを調べています。みなさんからの回答を集計することで、武蔵野市のよりよい未来を考えます。
- ・2006年度に始まり、今回で2回目になります。
- ・武蔵野市役所の許可を得て、成蹊大学文学部で「社会調査実習」という授業の一環として行っています。強制ではありませんが、どうかご理解のうえご協力をお願い申し上げます。
- ・お礼として図書カードを同封しました。ご利用ください。

◆ 調査対象者の選び方について

- ・調査対象者のみなさんは、22歳から69歳までの武蔵野市民のうち400人を、住民基本台帳からランダムに選びました。
- ・まず市役所で調査目的の審査を受けて、「プライバシーに関わる個人情報決して漏らさない」という誓約書を提出した上で、台帳閲覧が許可されました。
- ・そのうえで、住民基本台帳から「何人おき」という形で抽出しました。

◆ 回答について

- ・回答は10分ほどで終わります。無記名(匿名)でお答えください。
- ・ほとんどの場合、あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んで「○」をつけていただきます。

例

①	2
ある	ない

ある	ない
1	②

◆ 返送について

- ・返信用封筒に入れてご投函ください。差出人住所・氏名は記入しないでください。
- ・調査票は、個人情報保護法にしたがって厳重に管理します。数字をパソコンに入力したら、シュレッダーで廃棄します。

恐れ入りますが、8月13日(月)までにご返送ください

◆ 調査結果の公開について

- ・無記名でお答えいただきますので、「どなたが回答したのか」は一切わかりません。
- ・集計結果は、2008年春ごろ報告書として公開する予定です。武蔵野市役所にも提出します。

まず、武蔵野市や吉祥寺についておたずねします。

問1 あなたにとって、吉祥寺の街らしいと思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1 ジャズ喫茶 | 5 サンロード | 9 井の頭公園 |
| 2 吉祥寺アニメフェス | 6 ロンロン(駅ビル) | 10 成蹊大学 |
| 3 吉祥寺音楽祭 | 7 ハモニカ横丁 | 11 その他(具体的に) |
| 4 デパート | 8 いせや(焼き鳥屋) | 99 特にない |

問2 あなたにとって、吉祥寺の街に当てはまると思うものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 1 交通の便がよい | 4 おしゃれな雰囲気 | 7 座れる場所が多い |
| 2 好きな店がある | 5 活気がある | 8 その他(具体的に) |
| 3 いろいろな店がある | 6 歩きやすい | 99 特にない |

問3 あなたはこの1年間に、市内のイベントに行きましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 吉祥寺アニメフェスティバル(3月) | 6 むさしの青空市(10月) |
| 2 武蔵野桜まつり(4月) | 7 成蹊大学 櫻(けやき)祭(11月) |
| 3 成蹊桜祭(4月) | 8 市民文化祭(11月) |
| 4 吉祥寺音楽祭(5月) | 9 その他(具体的に) |
| 5 市民体育祭・水泳大会(9月) | 99 どれにも行ってない |

問4 あなたには、以下のことがどれくらい当てはまりますか。(○はそれぞれ1つ)

	はい ←						→	いいえ
ア) 吉祥寺が好きだ	6	5	4	3	2	1		
イ) 武蔵野市が好きだ	6	5	4	3	2	1		
ウ) 武蔵野市に住み続けたい	6	5	4	3	2	1		

問5 武蔵野市に重点的に進めてほしいことを3つ選ぶとすれば、何ですか。(○は3つまで)

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1 高齢者福祉 | 8 ごみ減量 | 15 参加と連携による街作り |
| 2 障害者福祉 | 9 緑化・水辺空間の整備 | 16 住宅政策 |
| 3 健康増進施策 | 10 産業の振興 | 17 交通システムや道路環境 |
| 4 子ども施策・青少年施策 | 11 安全な市民生活 | 18 自転車対策 |
| 5 小・中学校教育 | 12 災害に強いまちづくり | 19 駅周辺の整備 |
| 6 生涯学習 | 13 市民活動・市民文化 | 20 行財政改革 |
| 7 環境負荷が少ない街作り | 14 都市交流・国際交流 | 21 情報化の推進 |

地域でのお付き合いについて、おたずねします。

問6 あなたは現在、(市内外で)何かの会や組織に入っていますか。(○はいくつでも)

- 1 趣味(コース、写真など) 4 生協 7 ボランティア以外の市民団体・NPO
 2 運動(クラブやジムも) 5 コミュニティセンター利用 8 その他(具体的に)
 3 PTA 6 ボランティア団体 9 9 入っていない

問7 あなたはこれまで、ボランティア活動を市内や市外で行なったことがありますか。なかった場合、ボランティア活動を希望していましたか。(○はそれぞれ1つ)

	した	しなかった (希望していた)	しなかった (希望してなかった)
ア) 市内でボランティア活動	2	1	0
イ) 市外でボランティア活動	2	1	0

問8 あなたには、悩みを相談しあう方が、市内と市外に何人くらいいますか(家族除く)

市内にだいたい

--	--	--

人、市外にだいたい

--	--	--

人

問9 あなたにはこの1年間に、以下のことがありましたか。(○はそれぞれ1つ)

	ある	ない
ア) 井の頭公園に行った・通った	1	0
イ) お中元・お歳暮を贈った(家族の方も含めて)	1	0
ウ) お中元・お歳暮をもらった(家族の方も含めて)	1	0

あなたの普段の生活について、おたずねします。

問10 あなたは現在、以下のものを利用していますか。(○はいくつでも)

- | | | | | | |
|------------------|--------------------------|--------------|------------------|---------------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 9 |
| 携帯電話・P
HSでメール | 携帯電話・P
HSでインタ
ーネット | パソコンで
メール | パソコンでイン
ターネット | パソコンで
文書作成 | 利用してない |

問11 あなたは現在、健康のために何かしていますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| 1 散歩 | 4 ジョギング | 7 ゴルフ |
| 2 ストレッチ | 5 水泳 | 8 その他(具体的に) |
| 3 腹筋や背筋 | 6 テニス | 9 9 していない |

問12 あなたは、以下のことを一週間にどれくらいしますか。(○はそれぞれ1つ)

	毎日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	しない
ア) 吉祥寺駅周辺に行く・通る	7	6	5	4	3	2	1	0
イ) 運動をする	7	6	5	4	3	2	1	0
ウ) 携帯電話・PHSを使う	7	6	5	4	3	2	1	0
エ) パソコンを使う	7	6	5	4	3	2	1	0
オ) コンビニに行く	7	6	5	4	3	2	1	0
カ) パチンコに行く	7	6	5	4	3	2	1	0
キ) コーヒーを飲む	7	6	5	4	3	2	1	0
ク) お酒を飲む	7	6	5	4	3	2	1	0
ケ) タバコを吸う	7	6	5	4	3	2	1	0

問13 あなたは現在、以下のことに満足していますか。(○はそれぞれ1つ)

	とても満足	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	とても 不満	働いて いない
ア) 生活全体	6	5	4	3	2	1	
イ) 市の住みやすさ	6	5	4	3	2	1	
ウ) 家庭生活	6	5	4	3	2	1	
エ) 健康状態	6	5	4	3	2	1	
オ) 友人関係	6	5	4	3	2	1	
カ) 仕事(パートも)	6	5	4	3	2	1	9 9

問14 あなたには、この1週間に以下のことがありましたか。(○はそれぞれ1つ)

	ある	ない
ア) ストレスを感じたことがある	1	0
イ) 憂うつだと感じたことがある	1	0
ウ) ふと泣きたくなったことがある	1	0

問15 あなたはこれまで、海外旅行に何回くらい行ったことがありますか(出張も含めて)。

だいたい 回

問16 あなたはこれまで、東京ディズニーランドに何回くらい行ったことがありますか。

だいたい

--	--

 回

ご家族の生活について、おたずねします。

問17 あなたは以下のことを、一週間にご家族とどれくらいしますか。同居していないご家族も含めてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	毎日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	しない
ア) 夕食を一緒に食べる	7	6	5	4	3	2	1	0
イ) テレビを一緒に見る	7	6	5	4	3	2	1	0

問18 ご家庭の家事のうち、あなたはどれくらい行なっていますか。(○は1つ)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ほとん ど全部	9割	8割	7割	6割	5割	4割	3割	2割	1割	ほとん ど しない

問19 以下の意見に、あなたは賛成ですか、反対ですか。(○はそれぞれ1つ)

	とても 賛成	賛成	やや 賛成	やや 反対	反対	とても 反対
ア) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	6	5	4	3	2	1
イ) 政府は、裕福な家庭と貧しい家庭の差を縮めるべきだ	6	5	4	3	2	1

問20 ご家庭の毎月のやりくりは、どのような状況ですか。(○は1つ)

4	3	2	1
苦労していない	どちらかといえば 苦労していない	どちらかといえば 苦労している	苦労している

問21 かりに現在の日本社会を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入ると思いますか。(○は1つ)

5	4	3	2	1
上	中の上	中の中	中の下	下

最後に、あなたご自身についておたずねします。

問 2 2 あなたの年齢と性別を、お聞かせください。

<input type="text"/>	歳	1	0
		男	女

問 2 3 あなたは、武蔵野市に通算してどれくらい住んでいますか。

<input type="text"/>	年間くらい
----------------------	-------

問 2 4 あなたは、これまで武蔵野市とどのように関わってきましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1 市内で生まれた | 6 現在、市内に職場がある |
| 2 市内の小学校に通った | 7 過去に、市内の職場に勤めたことがある |
| 3 市内の中学校に通った | 8 現在、市内に夫または妻の職場がある |
| 4 市内の高校に通った | 9 その他(具体的に) |
| 5 市内の大学に通った | 9 9 どれも当てはまらない |

問 2 5 あなたは現在、結婚していますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|---------|-----|
| 1 | 0 | 9 9 |
| 結婚している | 結婚していない | 死別 |

問 2 6 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか。(義理も含めてあてはまる方すべて)

- | | | | | | | | |
|-------|----|----|------|-----|---|-------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 夫または妻 | 子供 | 父母 | 兄弟姉妹 | 祖父母 | 孫 | 一人暮らし | その他(具体的に) |

問 2 7 あなたのお住まいは、持ち家ですか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|----------------|--------------|
| 1 | 2 | 3 |
| 賃貸、社宅 | 持ち家
(マンション) | 持ち家
(戸建て) |

問 2 8 あなたの現在の主なお仕事は、どれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------------|--------------------|--------------|
| 1 自営業主・自由業者・家族従業員 | 現在仕事
をしてい
ない | 5 主婦・主夫 |
| 2 正社員・公務員 | | 6 学生 |
| 3 派遣社員・契約社員・嘱託社員 | | 7 無職 |
| 4 パート・アルバイト・内職・臨時雇用 | | 8 その他(具体的に) |

問29 現在仕事をしている方は、どのような仕事をしていますか。どこに分類できるか分からない場合は、8に○をつけて、具体的な仕事内容を書いてください。(○は1つ)

- 1 管理職(社長, 企業・官公庁の課長以上の役職者, 団体の役員, 議員など)
- 2 専門職(医師・看護師・税理士・教師・編集者・技術者など)
- 3 事務職(総務・経理・人事・企画・受付・入力など)
- 4 販売職(営業員・販売員・飲食店主・小売り店主・卸売り店主など)
- 5 サービス職(ウェ이터・ウェイトレス・料理人・美容師・スチュワーデスなど)
- 6 現場職(建設作業員・工場作業員・タクシーやトラックの運転手・警備員・清掃員など)
- 7 農林水産業
- 8 その他(具体的に)
- 9 9 現在仕事をしていない

問30 最後に通った学校は、以下のどれにあたりますか(中退・通学中含む)。(○は1つ)

- | | | |
|-------|---------|--------------|
| 1 中学校 | 3 短大・高専 | 5 大学・大学院 |
| 2 高校 | 4 専門学校 | 6 その他(具体的に) |

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れてお送りください。

もしこの調査や成蹊大学についてご意見・ご感想がございましたら、ぜひお聞かせください。

第1回督促状（8月9日送付）

武蔵野市民の皆さまへ 調査ご協力へのお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、私ども成蹊大学社会調査士課程室は、武蔵野市役所から許可をいただき、正規の授業の一環として「第2回 地域と生活に関する武蔵野市民調査」を実施致しております。先日、調査票を郵送させていただきましたが、お手元に届いておりますでしょうか。どうか趣旨をご理解いただき、ご協力お願いできれば幸いです。ご多忙中まことに恐れ入りますが、8月13日（月）までにご返送くださいますよう改めてお願い申し上げます。

なおこの調査は無記名での回収になりますので、調査対象の皆様全員に本状をお送りしています。すでにご回答いただいている方々にはお詫び致しますとともに、調査へのご協力を心から御礼申し上げます。

未筆ながら、皆さまの益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

2007年8月

成蹊大学社会調査士課程室 小林盾・武藤正義
0422-37-3972 月曜・木曜10～17時

武蔵野市民の皆さまへ 調査ご協力への再度のお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、私ども成蹊大学社会調査士課程室は、武蔵野市役所から許可をいただき、正規の授業の一環として「第2回 地域と生活に関する武蔵野市民調査」を実施致しております。地域社会の実情と課題を明らかにするためには、一人でも多くの方々のご支援をたまわりたいと考えております。返送期日は8月13日（月）でしたが、多少でしたら期日を過ぎても結構ですので、どうか調査の趣旨をご理解いただき、ご返送くださいますよう改めてお願い申し上げます。

なおこの調査は無記名での回収になりますので、調査対象の皆様全員に本状をお送りしています。すでにご回答いただいている方々にはお詫び致しますとともに、調査へのご協力を心から御礼申し上げます。

末筆ながら、皆さまの益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

2007年8月

成蹊大学社会調査士課程室 小林盾・武藤正義

成蹊大学社会調査実習 2007 年度報告書

—第 2 回 地域と生活についての武蔵野市民調査—

発行日 2009 年 2 月 20 日

監 修 成蹊大学社会調査士課程

編 集 小林盾, 武藤正義

発 行 成蹊大学社会調査士課程

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

電話 0422-37-3972

印 刷 大和メディアクリエイティブ
